



日本木材青壮年団体連合会

平成 28 年度 第 4 回理事会 会議資料

【第 4 回常任理事会】平成 28 年 9 月 3 日(土) 9 : 30~11 : 30

【第 4 回理事会】 同 12 : 00~15 : 00

【会場】兵庫県福祉センター 1F 多目的ホール

国歌
君が代は
千代に八千代に
さざれ石の
巖となりて
苔のむすまで

日本木青連会歌

作詞 日本木青連企画委員会
作詞 作曲 山路進一

木を愛し 木と共に
暮らし基を 育みて
未来のために 世のために
広く普及えた 木の香り
ああ 我ら 木青連の心意気
木を学び 木に求め
あまねく同士と たずさえて
相互の力 結びあい
文化日本を 拓くのは
ああ 我ら 木青連の理想なり
木に育ち 豊かさを
伸びゆく我ら 若人が
若き叡智と 情熱で
明日の社会を 築くのは
ああ 我ら 木青連の使命なり

日本木青連綱領
われわれ木青連は
同じ世代の木材人として
交流を深め、相互の啓発に努めよう
若い英知と情熱を結集し、
不屈の精神をもって行動しよう
木材界の発展を通じ、
よりよい社会を建設しよう

日本木材青壮年団体連合会 平成28年度 第4回理事会 次第

日時：平成28年9月3日（土）12:00～15:00
場所：兵庫県福祉センター 1F

- 1 開会
- 2 国歌斉唱（割愛）
- 3 会歌斉唱
- 4 綱領唱和
- 5 出席者確認
- 6 前回議事録の承認
- 7 議事録作成人・署名人指名（要約議事録）
- 8 会長 挨拶
- 9 直前会長 挨拶
- 10 配布資料確認
- 11 報告事項
 - ① 会長報告
 - ② 専務理事報告
 - ③ 各委員会報告
（総務・大会実行・木材利用推進・広報・木材活用・木育推進・異業種交流・
防災対策・政策提言・60周年記念事業・木青連の山管理運営委員会）
 - ④ 会長補佐報告（災害復興支援特別委員会・賛助会員・CWJ 2017 ※口頭報告）
 - ⑤ 地区長報告
 - ⑥ その他
- 12 協議事項
 - ① 会員個人情報取得ならびに公開に関する件 【総務委員会】
 - ② 頒布事業「2018年度版PRカレンダー企画」に関する件 【広報委員会】
 - ③ 第20回木材活用コンクール審査会 開催に関する件 【木材活用委員会】
 - ④ 小原 二郎 先生を偲ぶ会 開催に関する件
 - ⑤ 第41回全国児童・生徒木工工作コンクール審査会 審査委員に関する件 【木育推進委員会】
 - ⑥ 三育教本作成に関する件
 - ⑦ 木の次世代茶室デザインコンペ実施に関する件 【異業種交流委員会】
 - ⑧ 茶の湯研修会の実施に関する件
 - ⑨ 東京リッパ・パリンパ・パリンパ競技大会組織委員会への提言に関する件 【政策提言委員会】
 - ⑩ 創立60周年記念グッズ作成に関する件 【木青連山の管理運営委員会】
 - ⑪ 第61回全国会員福井大会 事業報告 及び 収支決算報告に関する件 【H27年度全国大会実行委員会】
 - ⑫ その他
- 13 審議事項
 - ① 上記協議事項② ④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪
 - ② その他
- 14 次回 第5回常任・理事会の案内
日程：平成28年10月29日（土） 9：30～11：30 会場：東京原木会館
12：00～14：45 会場：ホテルイースト21東京
◎16：00～20：30 創立60周年記念事業発表会・大交流会（同ホテル）
- 15 監事講評
- 16 閉会

<参考：9/3スケジュール>

- 9：30～11：30 平成28年度 第4回常任理事会（兵庫県福祉センター 1F 多目的ホール）
12：00～15：00 平成28年度 第4回理事会（同上）
15：15～15：45 総務委員会企画 第4回「命の30分」加藤昌之先輩（愛知会団）※初代 木材活用委員長（同上）
16：00～17：00 林野庁情報交換会 木材産業課 武藤 課長補佐（同上）
17：15～18：15 会団長会議 / 各委員会（同上）
18：20～ [バス移動]
19：00～21：00 懇親会（六甲山ホテル / 兵庫県神戸市灘区六甲山町南六甲 1034）



日本木材青壮年団体連合会 環境憲章

【理 念】

日本木材青壮年団体連合会(日本木青連)は、類まれなる環境性能を有する木質資材を扱う“木財人”として、長期的な視野に立って、更なる地球規模での環境保全に取り組み、循環型経済社会の形成を通じて、人類と森林と地球が調和する豊かな未来に貢献します。

～私たちは、木材が人類共有の財産であることから、その持続的な利活用を目指す会員を“木財人”と称しています～

【基本方針】

1.《木材利用の地球環境貢献》

木材利用の促進を通じて、地球環境に貢献する事業を推進します。

- ①木材製品の炭素貯蔵による地球環境貢献効果を正しく理解し、高炭素ストック社会の形成を目指して、木材利用の促進に努めます。
- ②木材加工の省エネルギー性能を正しく理解し、低炭素排出社会の形成を目指して、更に環境負荷の小さい木材製品と、その生産、流通技術の開発に努めます。
- ③地球上の健全な炭素循環における森林の役割を理解し、木材の持続可能な利用によってその機能が最大限に発揮される観点から、森林による炭素吸収源の拡大に貢献します。

2.《事業活動》

事業活動全般において、環境法令の遵守と一層の環境負荷の低減に努めるとともに、日本木青連会員全体の環境管理レベルの向上を図ります。

- ①有毒物質の適正管理、3Rの推進(リデュース、リユース、リサイクル)による省資源を推進します。
- ②会員への環境教育を推進し、環境保全意識の高揚を図ります。
- ③ビジネスパートナーと協働して、木育活動などの環境保全活動を推進します。
- ④合法木材の利用を推進します。

3.《社会活動》

森林資源の有効な循環利用を通じて地球環境保全を推進します。

- ①木材の利用促進を通じて、循環型経済社会の形成に努めるとともに、持続可能な企業価値向上と会員の社会貢献への意識を高めます。
- ②行政機関、地域、関係団体と連携して、環境保全活動に積極的に参加、支援します。
- ③社会と協調して豊かな地域環境の実現を目指した環境活動に取り組みます。

4.《情報発信》

正確な環境情報を開示するとともに、フィードバック情報を環境活動の改善に活かします。

- ①環境情報を積極的に公開し、社会との環境コミュニケーションを推進します。
- ②木材製品における温室効果ガス排出量等の「見える化」に努めます。
- ③環境行動計画を公表し、計画的かつ継続的な環境活動を推進します。

制定 2010年 6月19日

日本木材青壮年団体連合会
平成21年度会長

久我 洋一



役職名 : 日本木青連 平成28年度会長

氏名 : 越井 潤

項目	報告・連絡事項
活動報告	
7月20日	H27年度岐阜会団長 故谷本君のお墓参り @岐阜市 柳瀬会団長(岐阜)、落合部会長(三重)同行 (写真1参照)
7月21日	政策提言委員会 @江東区文化センター 丸副会長、田野委員長、落合部会長、勅使川原委員、丸委員、 飯島君、鈴木副会長、久々山委員長、瓦野専務理事、以上10名
7月22日	鈴木龍一郎歴代会長面談(小原先生しのぶ会の件) @東京
7月23日	東海地区協議会会員大会 @華王殿(松阪)
7月27日	持続可能性に配慮した木材の調達基準に関する説明会 オリンピック・パラリンピック組織委員会 @東京木材会館 田野委員長同行
〃	木材利用推進全国会議 @東京木材会館
7月30日	北海道地区協議会会員大会 @ノーザンホースパーク(苫小牧)
8月3日	第5回全国大会実行委員会 @紅中(大阪) 横尾委員長、瓦野専務理事、有馬副委員長、小畑副委員長、甲村副委員長、 田口副委員長、小西副委員長、村上副委員長、中崎副委員長、中村副委員長、 海老名副委員長、山本副委員長、有馬委員、服部委員、稲川委員、 吉田委員、卜部委員、上西大阪会団長、以上19名
8月5日	三育会 異業種交流委員会・木育推進委員会合同 @吹田くすのき保育園(大阪) 笹岡副会長、中村委員長、松下副委員長、稲見副委員長、大塚副委員長、 奥副委員長、保育園関係者5人、茶道関係者1名、以上13人
8月6日	第2回臨時常任理事会 @大阪木材仲買会館
8月25日	林野庁長官より感謝状授与 @林野庁 (写真2参照) 鈴木副会長、久々山委員長、多田会長補佐、瓦野専務理事同席 ウッドトランスフォームの熊本支援に対して
〃	林野庁木材産業課長宮澤氏(新任)に挨拶 @林野庁 瓦野専務理事他同席
8月27日	広報委員会事業 突撃取材 @東京木材青年クラブ
9月2日	2016年度日本ログハウス・オブ・ザ・イヤー選考会 @世界貿易センタービル

報告事項

役職名：日本木青連 平成28年度会長

氏名：越井 潤

項目	報告・連絡事項
----	---------



写真1. 故谷本君お墓参り



写真2. 林野庁長官より感謝状授与①



写真2. 林野庁長官より感謝状授与②

報告事項

第22回全国会員大会

〈とき〉 1977年(昭和52)4月10日

〈ところ〉 別府国際観光会館

〈出席〉 1,196名

〈年間のおもな動き〉 当連合会の運営に関する規定などを設けたほか、当年度は前年度に決定(7月23日理事会)をみた木材PR標語3点(応募800)を普及。また全業界から受け入れられた「木の日」設定呼びかけを7月9日の理事会で決定。研究セミナーも多くの会員が参加し開催されるようになった。「木の日の設定について」の全文は次のとおり。

“木の日”の設定について

昨今のように安定した世の中になると、人間生活の中で、水や空気と同じように、つい忘れがちであった「木」の存在を、やゝ見直そうとする意識が一般の人々の中に芽生えて来たことは、私達木材に関係あるものにとって大変よろこばしいことでもあります。

他業界では、例えば6月4日をムシ歯の日と定め、歯科医を中心に国民こぞで歯の健康に目覚めさせ、また毎月29日を肉の日として食肉の販売に力を注ぐなど、それぞれの業界が自分達の扱っているものを、一般の人々に広く意識付けしようと懸命に努力している姿が数多く見うけられます。

昔から、木は人間の住まいを中心に、家具、家庭用品、学校教材、梱包用材等と、巾広く私達の日常生活の中にとけこみ、なくてはならない素材として身近かに使用されて来ました。

また、山の木々は国土の治山治水、緑化と環境保全など、人間に大きな利益を与えています。まさに「木」が存在してこそ、人々の生活安定が保たれて来たといえましょう。

また、木という資源は鉄や石油などと違って、この地球上において、極めて短い周期で再生産される誠に便利な資源の一つであります。

この身近かにある「木」というものを、よりいっそう一般の人々に知っていただく時が来たと思います。

そこで、日本木材青壮年団体連合会では、内部において種々協議の結果、毎年10月8日を“木の日”と定めることに意見の統一を見ました。

それには、大きく3つの理由があります。

1つは、単純に考えて「木」という文字は、漢字で書くと十と八で構成されているということです。前述しましたように、6月4日をムシ歯の日と称し29日を肉の日と定めたことと同様な考え方からです。

2つには、昔から秋は木材、木造住宅建設の最盛期であり、1年のうちでいちばん木材の需要期でもあります。

3つには、新年度入りの春に比べて各団体の内部組織が十分に整い、種々な行事を実施するうえにおいても、時期的にいちばん良いと判断したからであります。

中には、植樹の最適な、春5月頃という意見もありましたが、秋でも植樹は十分可能であり、全てのことを考えたとき、森羅万象みのりの秋に、この記念すべき“木の日”を設定するよう提案した次第です。

“木の日”が設定された暁には、この記念日を中心に、全国各地で木材祭り、木材ショー、講演会、木魂（霊）祭、植樹祭、チビッコ木工展、従業員永年勤続表彰式等、各種の催物を挙行し、“木の日”が意義あるものとして、広く国益にも通ずる日を夢見たいと存じます。

木材業関連の皆様方、以上“木の日”の設定については如何でしょうか。また、10月8日を“木の日”と定めることについて、ご同意をいただきますれば幸甚と存じます。

なお、ご賛同いただけますならば、私達の手で、この趣旨を各方面に徹底させていきたいと思っておりますので、その節はよろしくお取計いのほど、お願い申し上げます。

昭和52年7月

日本木材青壮年団体連合会会長 西川 寛
同 木材PR部会長 影山 弥太郎

カルビー株式会社 ポテトチップスサイト
「365日あけたら、はじまる。カレンダー」 企画主旨

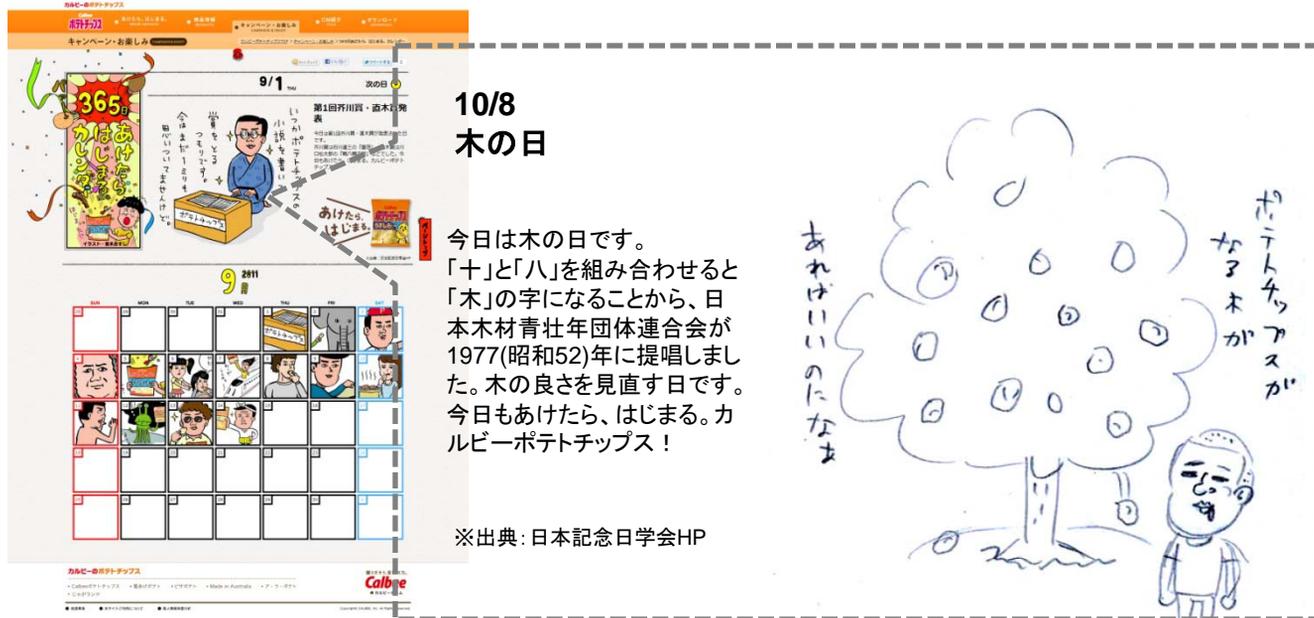
ブランドのキーメッセージ「あけたら、はじまる。」を伝えるためのWEBサイトのコンテンツとして以下のような主旨のコンテンツを制作いたします。

テーマ：毎日おいしいポテトチップスの魅力を365日分楽しんでもらう。

内容：日めくりカレンダーのような、「今日は〇〇の日」(記念日、歴史的出来事、著名人の生誕日など)のうんちくを商品に絡めながら365日毎日更新していきます。

表現方法としては短めの文章でうんちくを紹介し、その中の何かしらのエッセンスを商品とおもしろく絡めたようなイラストを掲載いたします。

【URL】 <http://www.calbee.co.jp/chips/enjoy/365calendar/>



以上のように短い文章とイラストでの紹介となりますが、つきましては名称の掲載、あるいは上記サンプルのような、イラストを使用した表現、商品との関係性などをご検討いただけますと幸いです。掲載を許諾いただける場合、確認欄にサインをいただき、下記連絡先へ返信をお願いいたします。何卒よろしく申し上げます。

掲載許諾確認サイン欄

ビービーメディア株式会社
インタラクティブコンテンツ事業部
佐藤 由紀奈 y_sato@bbmedia.co.jp
106-0031 東京都港区西麻布3-24-20 5F
TEL 03-5412-0213 / FAX 03-5412-0214
<http://www.bbmedia.co.jp/>

木の良さはきあって使って住んでみて



木の良さはきあって使って住んでみて

住んでよし 心ゆたかな 木の住まい



住んでよし 心ゆたかな 木の住まい

「木の標語」のつかい方 この標語（版下）を、封筒、名刺、便箋またはいろいろな印刷物などにご自由にご利用ください。適当な大きさの標語を切り抜き、原稿と一緒に印刷にまわしてください。印刷の際、大きさの調整や色の指定（例えばグリーン）もできます。また、この用紙をコピーすれば、何枚でもご利用できます。

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り



住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

住む人の心にしみる木の香り

平成28年度 日本木材青壮年団体連合会 会議等日程(9/3最新版)

年	日程	曜日	会議名称ほか	場所	会議場所	
H28	9月3日	土	第4回 常任理事会 & 第4回 理事会	林野庁との情報交換会	兵庫(神戸)	兵庫県福祉センター
	9月10日	土	中四国地区大会		岡山(美作)	旧遷喬尋常小学校
	9月17日	土	九州地区大会		宮崎(日南)	国際交流センター 小村寿太郎記念館
	9月24日	土	第6回 執行部会議		大阪	貸会議室U's2(ユーズ・ツー)
	10月28日	金	小原 二郎 先生を偲ぶ会		東京	ホテルイースト21東京
	10月29日	土	第5回 常任理事会 & 第5回 理事会		東京	東京原木会館/ホテルイースト21東京
	10月29日	土	創立60周年記念事業発表会・大交流会		東京	ホテルイースト21東京
	11月5日	土	東北地区大会		宮城(仙台)	仙台国際ホテル
	11月12日	土	関東地区大会		千葉(千葉)	京成ミラマーレ
	11月19日	土		茶室コンペ審査会	大阪	大阪木材仲買会館
	11月19日	土		第1回常任理事予定者会議(H29)	東京	浅草観光文化センター
	12月17日	土	第7回 執行部会議	委員会 + 忘年会	大阪	大阪木材会館
H29	1月13日	金	新年挨拶廻り + 第6回常任理事会	林野庁との情報交換会 + 木を愛する会 + 岸顧問会(仮)	東京	衆議院第二議員会館?
	1月14日	土		第2回常任理事予定者会議(H29)	東京	江東区産業会館
	1月14日	土	第6回 理事会		東京	江東区産業会館
	1月21日	土	北信越地区大会		長野(長野)	?
	2月4日	土	第8回 執行部会議		大阪	?
	2月18日	土	近畿地区大会		大阪	ホテル日航大阪
	2月26日	日		木工工作コンクール審査会	岡山(岡山)	ウッディワールドのざき
	3月10日	金		第3回常任理事予定者会議(H29) 第1回理事予定者会議(H29)	東京	スペース634
	3月11日	土	第7回 常任理事会 & 第7回 理事会	第121回臨時総会	東京	?
	3月12日	日		木材活用コンクール審査会	東京	内田洋行オフィス
	3月25日	土	茶の湯研修会		京都	?
	4月7日	金		新任挨拶廻り(H29)	東京	永田町周辺
	4月8日	土		第1回常任理事会&理事会(H29)	東京	江戸東京博物館
	6月15日	木	前々夜祭		大阪	?
	6月16日	金	第8回 常任理事会 & 第8回 理事会	第122回通常総会 第2回常任理事会&理事会(H29)	大阪	リーガロイヤルNCB 松の間
	6月17日	土	第62回 全国会員大阪大会		大阪	リーガロイヤル

※平成29年度の日程はあくまで予定です。

役職名 : 全国大会実行委員長

氏名 : 横尾 幸政

項目	報告・連絡事項
平成28年7月23日(土)	東海地区大会 @三重松坂
平成28年7月28日(木)	記念誌・広報担当部会打合せ @天理(副委員長…田口・村上、委員…ト部、横尾)
	・記念誌の構成、広告協賛の件等
平成28年7月30日(土)	北海道地区大会 @北海道苫小牧
平成28年8月2日(火)	登録担当部会打合せ@大阪(副委員長…有馬・中村、横尾)
	・日本旅行／小上氏を交え打合せ。宿泊先確保状況の確認、大会登録受付用のHP作成の件等。
平成28年8月3日(水)	第4回全国大会実行委員会 @大阪(越井会長、瓦野専務理事、副委員長…有馬(克)・小畑・田口・古西・中村・中崎・海老名・村上・山本・甲村、委員…有馬(輝)・服部・吉田・ト部・稲川・上西、横尾)
	・各部会進捗状況の確認
	・講演会講師の件、広告協賛に関する件等
平成28年8月6日(土)	日本木青連第2回臨時常任理事会 @大阪
平成28年8月17日(水)	記念誌・広報担当部会打合せ @天理(副委員長…田口・村上・山本、委員…ト部、横尾)
	・広告協賛に関する件
平成28年8月18日(木)	式典・講演会担当部会打合せ @大阪(小畑副委員長、横尾)
	・式典・講演会の概要打合せ
平成28年8月22日(月)	式典・講演会担当部会打合せ @大阪(瓦野専務理事、副委員長…小畑・中崎・海老名、委員…有馬(輝)、服部、吉田)
	・式典概要、式典タイムスケジュール、講演会講師、委員会成果発表の件等
平成28年8月29日(月)	渉外担当部会打合せ @大阪(古西副委員長、委員…都藤・桂・澤田、横尾)
	・懇親会の件、会場の件等
以降予定	
平成28年9月4日(日)	第4回日本木青連近畿地区協議会理事会 @神戸
平成28年9月10日(土)	中四国地区大会 @岡山美作
平成28年9月12日(月)	第5回全国大会実行委員会 @大阪
平成28年9月17日(土)	九州地区大会 @宮崎日南
平成28年9月24日(土)	日本木青連執行部会議 @大阪
平成28年10月1日(土)	式典・講演会担当部会打合せ @京都
平成28年10月11日(火)	第6回全国大会実行委員会 @大阪
	第62回全国会員近畿大阪大会
	開催日 平成29年6月16日⇒理事会・総会・前夜祭
	平成29年6月17日⇒大会式典・講演会・大懇親会
	大会開催地 リーガロイヤルホテル大阪・中之島センタービル

役 職 名 : 広報委員長

氏 名 : 岩城 努

項 目	報 告 ・ 連 絡 事 項
7月16日(土)	第3回常任理事会&理事会 大阪木材会館 9:30 ~
7月20日(水)	ウッドレター第2号 発刊 2017年度版木青連壁掛けPRカレンダー打合せ (サンメッセ : 和田)
7月23日(土)	9時30分~ 2018年度版木青連壁掛けPRカレンダー PRカレンダー試験撮影 15時20分~ 東海地区大会 IN 三重 (松阪・華王殿)にてカレンダーのPR
	 <p>撮影協力:(株)田上 ※上記はまだ確定ではありません。イメージです!</p>
7月24日(日)	木青NET会員ページのテストページでSSLの試験運用開始。
7月25日(月)	広報委員会全体 スカイプ会議 20:00 ~ 浅岡副会長・岩城委員長・野呂副委員長・ 川口副委員長・西川副委員長・石山副委員長 ・峰野副委員長・吉田副委員長(8名)
	
7月30日(土)	北海道地区大会 IN 苫小牧 取材 式典:ノーザンホースパーク 15:00 ~ エクスカーション:社台スタリオンステーション 11:00 ~

報告事項

役 職 名 : 広報委員長

氏 名 : 岩城 努

項 目	報 告 ・ 連 絡 事 項
8月11日(木)	木青NET会員ページをSSL対応完了。 ※木青ネットのサブドメインも順次対応予定。
8月18日(木)	木質化カレンダー 2次作業 松阪スマッキー 19:00 ~ 24:00 岩城委員長・川口副委員長・野呂副委員長・西川副委員長・ 青和会 (堀内 ・ 柳瀬 ・ 齋藤 ・ 小牧)
8月20日(土)	広報委員会(松阪+スカイプ参加) 松阪スマッキー 13:00 ~ 木質化カレンダー 梱包作業 ・ 配送手続き
8月27日(土)	突撃！広報委員会(訪問先:東京会団)
9月1日(木)	第4回理事会 すり合わせ 高雄木材(株) 19:00 ~ 浅岡副会長 ・ 岩城委員長 ・ 石山副委員長 ・ 西川副委員長
9月3日(土)	第4回常任理事会&理事会にて2018年度版木青連壁掛けPRカレンダー上程(協議・審議) ・前回理事会での協議を踏まえ上程、協議→審議予定 ①六曜・建築吉日・記念日等の記載②桜の香りインク見積り取得③写真の各地区へ協力をお願い 等 常任理事会にて木青NETカレンダーについての説明・デモ予定
< 予 定 >	
9月10日(土)	中四国地区大会 IN 美作
9月17日(土)	九州地区大会 IN 宮崎

報告事項

役職名：日本木青連 木材活用委員会委員長

氏名：三谷 州平

項目	報告・連絡事項
平成28年7月16日(土)	平成28年度 第3回常任理事会 (@大阪木材会館 6F/9:30~11:30)
同日	平成28年度 第3回理事会 (@大阪木材会館 6F/12:30~15:30)
同日	懇親会 (@Joule大阪市中央区/18:30~20:30)
平成28年7月20日(水)	木活コンクール後援依頼先の日本建築家協会会長が前任者 芦原太郎会長から後任者 六鹿正治会長(ろくしか まさはる)に変更とのこと。
平成28年7月22日(金)	木活コンクールご協賛 日高勝三郎商店 2万円
平成28年7月30日(土)	北海道地区協議会会員苦小牧大会 (@ノーザンホースパーク/11:00~16:00)
同日	懇親会 (17:30~19:30)
	
平成28年8月1日(月)	林野庁木材産業課長が前任者の小島孝文様から宮澤俊輔(みやざわ しゅんすけ)様に変更とのこと。
平成28年8月2日(火)	第4回スカイプ会議 (20:00~21:40) 参加人数9名 協議内容(協賛金、コンクール用HPの件、作品募集方法の件)
平成28年8月3日(水)	木活コンクールご協賛 一般社団法人JBN 10万円
平成28年8月6日(土)	平成28年度 第2回臨時常任理事会 (@大阪木材仲買会館/15:00~18:00)
同日	懇親会 (AbsintheSOLAAR)
平成28年8月16日(火)	農林水産省 木活コンクール後援・大臣賞・長官賞・審査委員委嘱状 一式郵送
平成28年8月26日(金)	小原二郎先生の忍ぶ会 第38代会長鈴木 龍一郎先輩打ち合わせ 瓦野専務、浅岡副会長、三谷 (@材惣木材本社(名古屋)/9:00~)
以降予定	
平成28年9月3日(土)	平成28年度 第4回常任理事会 (@兵庫県福祉センター/9:30~11:30)
同日	平成28年度 第4回理事会 (12:00~15:00)
同日	懇親会
平成28年9月17日(土)	平成28年度 九州会員宮崎大会

報告事項

木材活用委員会 議案書

平成28年9月3日

協議	審議	報告
		○

担当副会長	専務	総務委員長
浅岡	瓦野	朝間

委員会名	木材活用委員会
委員長名	三谷 州平
担当副会長名	浅岡 秀哉

議案名	第20回木材活用コンクール審査員(外部)
外部協力者 協力の種類	下記の通り(予定)
主旨	<p>第20回木材活用コンクール審査委員を下記の方々へ依頼する。</p> <p>審査委員長 深尾精一 首都大学東京 名誉教授 審査委員 有馬孝禮 東京大学 名誉教授 加藤昌之 株式会社 加藤設計 代表取締役 古久保英嗣 公益財団法人 日本住宅・木材技術センター 理事長 中川誠一 一般社団法人 日本インテリアプランナー協会 顧問 松井郁夫 株式会社 松井郁夫建築設計事務所 代表取締役 藤田香織 東京大学大学院 准教授 宮澤俊輔 林野庁林政部 木材産業課長 渋谷浩一 国土交通省住宅局 住宅生産課 木造住宅振興室長</p> <p>以上9名(外部)</p>
事業名称	
事業概要	<p>開催日時：(開始) H28年4月1日 (終了) H29年6月17日 開催場所：(株)内田洋行にて審査会予定 参加対象者： 審査委員・木材活用委員会・日本木青連メンバー・内田洋行 協賛依頼対象団体： 現在検討中</p>
協議の要点	<p>審査委員のメンバーの可否。 審査員2名が後任者へ変更となったことの報告です。</p>

報告事項



平成28年7月吉日

御中

日本木材青壮年団体連合会
会 長 越 井 潤
担当副会長 浅岡 秀哉
委 員 長 三 谷 州 平

日本木材青壮年団体連合会 第20回木材活用コンクールご協賛のお願い

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私ども日本木材青壮年団体連合会は、このたび平成28年度に第20回木材活用コンクールを主催するにあたり、当コンクールへのご協賛をいただける方(企業・団体・個人)を募集いたします。

当コンクールは、農林水産省、国土交通省、(公財)日本住宅・木材技術センター、(一社)全国木材組合連合会、(公社)日本建築家協会、(一社)日本建築学会、(一社)日本インテリアプランナー協会、(公財)日本デザイン振興会の後援を受け、木材の新しい用途の普及と木材利用の拡大を図るために全国規模で開催しているものであり、例年数百件にのぼる応募作品があります。

当コンクールの趣旨は、木材の利用を広め、豊かな暮らしや社会の実現に寄与することにあります。伝統的な素材である木材は、四季の変化に富む日本の風土に適した材料として古くから私達の生活に密接しており、地球環境の保全や健康的で心地よい生活環境をつくり出す一助として大きく寄与しております。このような日本の自然が育んだこの素晴らしい木材の良さを、当コンクールを通じて多くの人々に知っていただく端緒となれば幸いと願っている次第です。

木の素材としての素晴らしさに共感していただける、もしくは環境保全に積極的に取り組んで居られる皆様におかれましては、当コンクールの趣旨にご賛同をいただき、ご協賛を賜りますようお願い申し上げます。

謹 白

記

- | | |
|-------|---|
| 協賛金 | 1口 2万円以上 |
| お申込方法 | 所定の「協賛申込書」に必要事項をご記入の上、 FAXにて お申込願います。 |
| 問合せ先 | 日本木材青壮年団体連合会 木材活用委員会 委員長 三谷 州平
Tel(0983)43-0128 携帯(090)1196-3166
e-mail:mitani@almond.ocn.ne.jp |
| お申込先 | 日本木材青壮年団体連合会 事務局 Fax(03)5620-4809 |
| その他 | ご協賛いただきましたご芳名(企業名、団体名、個人名)は、日本木材青壮年団体連合会 第62回全国会員近畿大阪大会記念誌等に明記させていただきます。 |

以上

日本木材青壮年団体連合会
第20回木材活用コンクール ご協賛申込書

コンクールの趣旨に賛同し、下記の通り協賛いたします。

FAX (03) 5620-4809

日本木材青壮年団体連合会 事務局 宛

平成 年 月 日

◆ 申込者

(住所又は所在地)

(名称)

(代表者名)

◆ 連絡先 (請求書送付先)

(担当部署名)

(担当者氏名)

(電話番号)

(ファックス)

◆ 金額

金

円

(1口 2万円 ×

口)

◇ お手数ですが、申込書に必要事項をご記入の上、ファックスにてお申込下さい。

◇ お申込を受付しましたら、上記の連絡先(請求書送付先)に請求書を送付させていただきます。

木材活用コンクール 過年度協賛状況一覧表

No.	企業・団体名	11回	12回	13回	14回	15回	16回	17回	18回	19回	20回
		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
1	(財)日本住宅・木材技術センター	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000				
2	(社)全国木材組合連合会	40,000									
3	日本木材防腐工業組合	20,000	20,000		10,000						
4	(一般社)工務店サポートセンター					20,000					
5	(社)全国中小建築工事業団体連合会		60,000	20,000	20,000						
6	ICKトレーディング	20,000									
7	(社)愛知県木材組合連合会	20,000									
8	住友林業(株)中部営業部	20,000				20,000					
9	日本製紙木材(株)名古屋営業所	20,000									
10	北海道木材産業協同組合連合会	20,000									
11	双日建材(株)	20,000									
12	宮川工機(株)	20,000									
13	特定非営利活動法人 北海道住宅の会	20,000									
14	名古屋木材青壮年会	20,000									
15	桜井木材協同組合		20,000								
16	伊藤忠林業(株)			20,000							
17	阪和興業(株)			20,000		20,000					
18	伊藤忠建材(株)			20,000		20,000		100,000	100,000	100,000	
19	ネットイーグル(株)			100,000		100,000	100,000				
20	(株)アルファフォーラム										
21	ナイス株式会社					40,000	20,000				
22	JKホールディングス								100,000		100,000
23	(株)東海木材相互市場									100,000	
24	住友林業(株)							100,000	?		
25	榊秀光ビルド							40,000			
26	(一社)全国工務店協会(JBN)						20,000				100,000
27	日高勝三郎商店										20,000
合 計		300,000	160,000	240,000	90,000	280,000	200,000	240,000	200,000	200,000	220,000
No.	平成28年度 企業・団体名	〒		送付先住所			担当者		ご協賛額		
1	JKホールディングス株式会社	〒136-0082		東京都江東区新木場1-7-22新木場タワー			石田 慎也 様		100,000		
2	一般社団法人全国工務店協会(JBN)	〒104-0032		東京都中央区八丁堀3-4-10 京橋北見ビル東館6階			坂口部長様		100,000		
3	日高勝三郎商店	〒882-0866		宮崎県延岡市平原町5丁目1495-1			日高 健太郎 様		20,000		
4											
5											
6											
7											
8											
10											
合 計									220,000		

役職名：木育推進委員会 委員長

氏名：野崎 健太郎

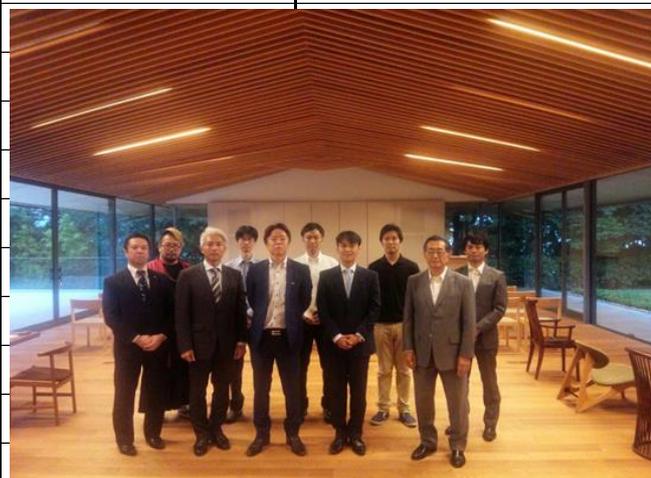
項目	報告・連絡事項
平成28年7月11日(月)	三育教本打ち合わせ @友野印刷(製作会社)
	参加者: 中村異業種委員長、大塚副委員長、野崎
	依頼事項
	・何パターンかの見積依頼
	・三育教本の構成について意見徴収
平成28年7月15日(金)	三育会(神戸:竹中大工道具館)
	・大塚副委員長出席(野崎欠席)
	・赤尾竹中大工道具館館長講演
	・懇親会にて三育教本の構成について議論
平成28年7月16日(土)	第3回常任理事会、理事会
平成28年8月5日(金)	第5回 三育会(大阪)くすのき保育園
	・大塚副委員長参加(野崎欠席)
	・梅原宗直先生による茶道講演
	・三育教本の構成打ち合わせ
平成28年8月6日(土)	第2回臨時常任理事会
平成28年8月10日(水)	大塚副委員長と三育教本の構成について打ち合わせ
以降、予定	
平成28年9月3日(土)	第4回常任理事会、理事会
平成28年9月10日(土)	中四国地区大会(美作)

報告事項

役職名：異業種交流委員会委員長

氏名：中村 隆章

項目	報告・連絡事項
7月6日	東洋木材新聞社：島崎社主 「木の次世代茶室デザインコンペティション」取材対応及びPR
7月7日	日刊木材新聞社：清原氏 「木の次世代茶室デザインコンペティション」取材対応及びPR
7月8日	兵庫県木材組合連合会：松田専務理事 「木の次世代茶室デザインコンペティション」PR、県担当学校紹介依頼
7月9日	平成28年度近畿地区協議会第3回理事会（和歌山県和歌山市） 「木の次世代茶室デザインコンペティション」説明・事業協力要請
7月11日	友野印刷（岡山県岡山市） 木育推進委員会：野崎委員長・大塚副委員長 三育教本構成及びスケジュール打合せ・見積依頼
7月15日	第4回三育会（兵庫県神戸市） 出席者（役職割愛） 日本木青連：笹岡・稲見・奥・松下・大岡・大塚 幼稚園運営者：重田・田村 茶道：梅原 講師：公益財団法人竹中大工道具館 赤尾館長 ①竹中大工道具館の役目：日本建築文化を未来に伝えていくため大工道具を 収集・保存しその研究や保存を通じて匠の技や心を紹介（現在約35000点保存） ②課題：電気道具が主流のなり伝統的手道具が忘れ去られていっている ③今後の木育活動：ワークショップ（木工教室）、出張授業や教職者への教育 山に行つての間伐体験、年2回の茶会、木の匂いや作ることの体験を重視



報告事項

役 職 名 : 異業種交流委員会委員長

氏 名 : 中村 隆章

項 目	報 告 ・ 連 絡 事 項
7月16日	平成28年度日本木青連第3回常任理事会 (大阪府大阪市)
	平成28年度日本木青連第3回理事会 (大阪府大阪市)
	異業種交流委員会打合せ
	茶室コンペ: 現状進捗、各地区への協力要請
	茶の湯研修会: 会長の意向、方向性説明、事業スケジュール調整
7月25日	神戸大学大学院 (兵庫県神戸市)
	農学研究学科+建築学科
	出席者: 稲見副委員長、服部君
	面談: 黒田教授 学生: 3名
	茶室デザインコンペ概要説明
	ガイダンス実施
	榎材活用についてのレクチャー
	
7月30日	北海道地区協議会会員若小牧大会 (北海道若小牧市)
8月5日	大阪府生菓子組合55周年大会打合せ (大阪府大阪市)
	出席者: 稲見副委員長、松下副委員長
	生菓子組合: 中西幹事長、新澤委員長
	11月15日16日大阪市中央公会堂にて実施
	日本木青連委員会PRとして参加予定
	ブース無償提供頂き茶室コンペ作品展示
	木青連カレンダー販売、貫皿製作
	和菓子用黒楊枝ワークショップ予定
	来場予定者数約2000人/2日
	
8月5日	第5回三育会 (大阪市吹田市) くすのき保育園
	出席者 (役職割愛) 日本木青連: 越井、笹岡、稲見、松下、奥、大塚
	学校運営者: 三浦、重田、田村、大塚 全菓連: 松田
	講師: 梅原宗直
	①くすのき保育園現状視察
	全体的に木質化されており一部和室 (畳敷き) コーナーも設置
	屋上緑化、食物栽培の教育実施

報告事項

役職名：異業種交流委員会委員長

氏名：中村 隆章

項目	報告・連絡事項
	②茶道における現状
	古来より茶道は基本で生活の中に文化としてあった
	昨今はお茶業界、和菓子業界は輸出にて右肩上がりに成長の兆しがある一方、
	茶道業界は高齢化の背景と流派の利権争いで右肩下がりにある
	茶道人口は日本全体の約1割のうち7割が高齢者である
	③課題：茶道の衰退は「つたえる」ことが出来ていない
	流派に属さない「茶人」が増えている→全国で約300人
	お茶業界より「茶育指導士」を育成→おいしい、楽しい、嫌いにならないお茶
	をめざして心配りができる人を育てている。



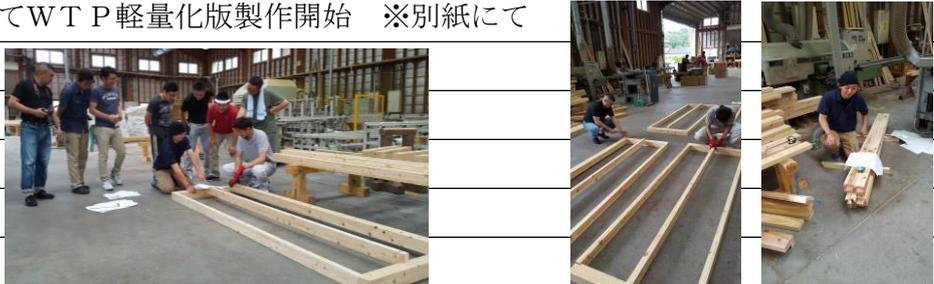
9月4日	日本木青連第4回常任理事会
	日本木青連第4回理事会
予定	兵庫県立東播工業高校茶室コンペPR
	龍野北高校茶室コンペPR
	県立神戸工業高校茶室コンペPR
現状報告	茶室デザインコンペ
	エントリー数16件



報告事項

役職名：平成28年度 防災対策委員長

氏名：久々山大樹

項目	報告・連絡事項
7月3日	福島にてWTP軽量化版製作開始 ※別紙にて 
7月5日	熊本県大津町から西原村たんぼぼハウスへWTP移設 ※別紙にて
7月9日	近畿地区協議会理事会 (欠席)
7月13日	平林ウッドパークに大阪府竹内副知事がWTP視察に来られ、大青協メンバーの 応援により、ウッドトランスフォームの建て方を実演する。 ※別紙にて
7月16日	日本木材青壮年団体連合会第3回常任理事会 @大阪木材会館 日本木材青壮年団体連合会第3回理事会 @大阪 第4回防災対策委員会 @大阪 鈴木副会長((副委員長)藤本/清水/中塚/佐藤)((委員)高橋宏/長村) 委員会スケジュール・役割分担・助成金 ・軽量化・部材変更・マニュアル 仕様書・PRツール・Skye活用について 次回第5回委員会は8/20熊本。
7月21日	政策提言委員会出席 @東京都江東区文化センター
7月25日	応急仮設住宅調査部(梅垣副委員長高橋委員中川原委員)による第1回調査(日當先輩へのヒアリング)
7月26日	WTPをウッドデザイン賞2016へ応募(10月下旬発表後、最終審査)
7月27日	WTP改良版の製作の続き(三瓶副委員、荒川委員、高林委員他計7名) @福島 
7月28日	熊本の佐藤副委員長より、たんぼぼハウスでの経過報告 県外からのボランティアスタッフが4名寝泊まりをしており クーラーをつけると寒いくらい 快適に過ごしているとの事。 

報告事項

役職名 : 平成28年度 防災対策委員長

氏名 : 久々山大樹

項目	報告・連絡事項
7月29日	北海道地区大会 @北海道苫小牧市 村山副委員長と災害時連絡網について打ち合わせ
8月5日	Skype会議 WTP広報について(鈴木, 高林, 荒川, 三瓶, 高橋, 藤本, 清水, 長村, 久々山)
8月6日	日本木材青壮年団体連合会臨時常任理事会 @大阪木材仲買会館
8月8日	WTP軽量化バージョン製作@福島
8月9日	Skype会議 WTPハード部分について(鈴木/高林/荒川/高橋/藤本/清水/久々山)
	耐用年数は、備蓄使用環境などによって変わるので一概に何年とは言えないが
	定期的なメンテナンス(塗装や部材交換など)を行えば長期的に使用可能。
	軽量化バージョンが完成すれば、部材共通化バージョンを製作し最終形とする方向性で。
8月16日	Skype会議 WTPソフト部分について(鈴木/藤本/長村/荒川/三瓶/佐藤/清水/久々山)
	備蓄マニュアルの防水加工素材の選定を急ぐ、仕様書のたたき台の作成を始める
	今後のスケジュールを考え、林業祭に最終バージョンをお披露目する事に目標変更。
	図面完成を急ぎ、急ピッチでパネル製作を行う。並行してPRツール・仕様書・
	マニュアルの内容充実に努める。
	以下予定
8月20日	第5回防災対策委員会@熊本県
8月23日	ウッドトランスフォームで近畿森林整備局から大阪府木連が表彰される。@大阪木材会館
8月25日	林野庁長官から日本木青連が表彰される。@東京霞ヶ関林野庁長官室
9月3日	日本木材青壮年団体連合会第4回常任理事会 @兵庫
9月3日	日本木材青壮年団体連合会第4回理事会 @兵庫
9月3日	第6回防災対策委員会 @兵庫
9月4日	近畿地区理事会 @兵庫
9月17日	九州地区大会参加
10月23日	福島県にて林業祭が行われWTPの実演を予定。
10月23日	第7回防災対策委員会 @福島
10月29日	日本木材青壮年団体連合会第5回常任理事会 @東京
10月29日	日本木材青壮年団体連合会第5回理事会 @東京
10月29日	第8回防災対策委員会
11月5日	東北地区大会参加 同日第9回防災対策委員会
11月26日	近畿地区協議会理事会
12月17日	執行部会議 同日第10回防災対策委員会

報告事項

ウッドトランス軽量化試作

2016/7/13

防災対策委員会 三瓶隆道

5/20(金) 軽量化についての打合せ

【出席者】

三瓶副委員長、高林委員、荒川委員、鈴木副会長

【打合せ内容】(変更点)

土台：105×105⇒90×90

柱：105×105⇒90×90

間柱：45×105⇒45×90

外壁板材:30mm→21ミリ

可能な限りプレカット加工をする⇒いわきプレカット加工依頼

耐久性については、少々疑問は残るが先ずは作ってみよう

6/27(月) プレカット加工開始(いわきプレカット)

7/3(日) パネルの組み立て

【出席者】

三瓶副委員長、高林委員、荒川委員、鈴木副会長、遠藤(いわきプレカット)、
他福島会団より7名

【作業内容】

パネルの組み立て。外壁材は後日。

今後の予定

- ・8月中にパネルの外壁材を取り付ける。
- ・10/22,23 福島県林業祭に組立、展示予定。

W T P 軽量化

※1 建具材、金物等、細かい付属品は含まれておりません。

※2 杉比重0.34、桧比重0.38に設定してあります。

ハ° 柵⑩・⑫

既存 0.0427 m³=15 kg

試作 0.0372 m³=13 kg 13%減

ハ° 柵⑤・⑫

既存 0.1322 m³=45 kg

試作 0.0755 m³=26 kg 42%減

ハ° 柵⑩・⑫

既存 0.1261 m³=43 kg

試作 0.0704 m³=24 kg 44%減

ハ° 柵⑩

既存 0.1168 m³=40 kg

試作 0.0807 m³=27 kg 33%減

ハ° 柵⑥・⑦・⑬・⑭

既存 0.134 m³=46 kg

試作 0.0748 m³=25 kg 46%減

ハ° 柵⑬・⑭・⑮・⑯

既存 0.1246 m³=42 kg

試作 0.0719 m³=32 kg 24%減

ハ° 柵⑧・⑮

既存 0.1347 m³=46 kg

試作 0.0752 m³=22 kg 44%減

ハ° 柵⑪

既存 0.1303 m³=46 kg

試作 0.0719 m³=24 kg 46%減

ハ° 柵⑨・⑯

既存 0.1512 m³=51 kg

試作 0.0869 m³=30 kg 41%減

デッキ 0-1・4 (桧)

既存 0.1604 m³=61 kg

試作 0.1071 m³=41 kg 33%減

デッキ 0-2・3 (桧)

既存 0.1604 m³=61 kg

試作 0.0972 m³=37 kg 39%減

全体m³数

既存 1.4134 m³

試作 0.8697 m³

全体総重量

既存 494 kg

試作 301 kg

39%減

関西テレビの番組(6/19関テレ通信)で紹介された内容





2016.7.5 菊池郡大津町人権啓発福祉センターで役目を終えた応急仮設ハウスの解体。
同日、以前より建設希望されていた障害者自立支援施設 にしはらたんぽぽハウス(阿蘇郡西原村)に移設



当日は地元九州地区を始め、大阪や福島からの木青連メンバーが応援に駆け付け総勢27名での作業を行った。
懸案事項であった雨水がドア付近へ流れてくる点を、雨樋をつけることにより解消した。



施設長上村様へ鍵の引き渡しを行い、作業終了。解体～輸送～基礎～建設まで全行程で約5時間で終了した。
今後も使用状況の経過確認を行う。



7/13 竹内副知事をはじめ大阪府の方々のウッドトランスフォームの視察@平林ウッディパーク
平林会や新聞社も来られて、建設実演を行いました。
上西会長はじめ大青協メンバーも多数の応援に駆けつけてくれました。
当委員会藤木建て方リーダーの元、約30分で無事に建設終了しました。



役職名：政策提言委員会委員長

氏名：田野 巧一郎

項目	報告・連絡事項
7月21日	<p>政策提言委員会 in東京 江東区文化センター 出席者:越井会長、落合政策提言部会長、丸副会長、鈴木副会長、久々山防災対策委員長勅使河原委員、丸委員、田野 オブザーバー:飯島君(東京) 内容:農林部会林政小委員会との意見情報交換会に向けた協議</p> 
7月27日	<p>オリパラ組織委員会による『持続可能性に配慮した木材調達基準策定』に関する説明会in東京 木材会館 出席者:越井会長、田野</p>
8月3日	<p>吉野衆議院議員(福島6区)との面談 in東京 衆議院第二会館 出席者:鈴木副会長、田野 内容:農林部会林政小委員会との意見情報交換会に向けた打ち合わせ</p>  
8月6日	<p>政策提言委員会 in大阪 大青協事務所 出席者:越井会長、丸副会長、瓦野専務理事、朝間総務委員長、田野 オブザーバー 松原君(北海道) 内容:オリパラ組織委員会に向けた持続可能性木材に関する要望書作成</p> <p>第2回臨時常任理事会 in大阪 大阪木材仲買会館</p>
8月25日	<p>オリパラ組織委員会 大会準備運営第1局 持続可能性部 持続可能性事業課長 日比野氏に、オリンピック組織委員会に向けた持続可能性木材に関する要望書を一先ず提出</p>
8月27日	<p>広報委員会 第2回突撃会団訪問!!(東京)</p>
今後の予定	
9月～10月中旬まで	<p>農林部会林政小委員会との意見情報交換会</p>
10月初旬	<p>オリンピック組織委員会に向けた持続可能性木材に関する要望書を正式に提出</p>

報告事項

東京オリンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会

配布資料

1. 持続可能性に配慮した木材の調達基準
2. 参考（認証材以外の証明に関する様式例）

組織委員会が調達する物品・サービス等に使用される木材について、持続可能性の観点からの調達基準を以下のとおり定める。

持続可能性に配慮した木材の調達基準

1. 本調達基準の対象は以下の木材とする。

- ア 建設材料として使用する製材、集成材、直交集成板、合板、単板積層材、フローリング
- イ 建設に用いられるコンクリート型枠合板
- ウ 家具に使用する木材（製材端材や建設廃材等を再生利用するものを除く）

2. 組織委員会は、木材について、持続可能性の観点から以下の①～⑤が特に重要と考えており、これらを満たす木材の調達を行う。なお、コンクリート型枠合板については再使用の促進に努め、再使用する場合でも①～⑤を満たすことを目指し、少なくとも①は確保されなければならない。

- ①伐採に当たって、原木の生産された国又は地域における森林に関する法令等に照らして手続きが適切になされたものであること
- ②中長期的な計画又は方針に基づき管理経営されている森林に由来すること
- ③伐採に当たって、生態系の保全に配慮されていること
- ④伐採に当たって、先住民族や地域住民の権利に配慮されていること
- ⑤伐採に従事する労働者の安全対策が適切に取られていること

3. FSC^{*1}、PEFC^{*2}、SGEC^{*3}による認証材については、上記2の①～⑤への適合度が高いものとして原則認める。

4. 上記3の認証材でない場合は、上記2の①～⑤に関する確認が実施された木材であることが別紙1に示す方法により証明されなければならない。

5. サプライヤー^{*4}は、上記3または4に該当する木材を選択する上で、国内林業の振興とそれを通じた森林の多面的機能の発揮等への貢献を考慮し、国産材を優先的に選択するよう努めなければならない。

6. サプライヤーは、使用する木材について、上記3の認証及び4の証明に関する書類を5年間保管し、組織委員会が求める場合はこれを提出しなければならない。

7. 組織委員会は、使用する木材及び再使用する木材について、十分具体的な根拠とともに本調達基準に係る不遵守の指摘が示された場合には、当該指摘のなされた木材について調査を行う。この場合、サプライヤーは、組織委員会の行う調査に協力しなければならない。

8. サプライヤーは、「持続可能性に配慮した調達コード 基本原則」(2016年1月公表)の趣旨を理解し、これを尊重するよう努めなければならない。

※1 : Forest Stewardship Council (森林管理協議会)

※2 : Programme for the Endorsement of Forest Certification schemes

※3 : Sustainable Green Ecosystem Council (緑の循環認証会議)

※4 : 組織委員会が契約する物品・サービスの提供事業者

別紙1（認証材以外の証明方法）

持続可能性に配慮した木材の調達基準（以下「調達基準」という。）の4については以下のとおりとする。

- (1) 調達基準2の①の確認については、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン（平成18年2月15日）」に準拠した合法性の証明によって行う。なお、コンクリート型枠合板の合法性の証明については、国の「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」（平成28年2月2日変更閣議決定）における「合板型枠」と同様の扱いとする。
- (2) 調達基準2の②～⑤については、国産材の場合は森林所有者、森林組合又は素材生産事業者等が、輸入材の場合は輸入事業者が、説明責任の観点から合理的な方法に基づいて以下の確認を実施し、その結果について書面に記録する。
 - ②：当該木材が生産される森林について、森林経営計画等の認定を受けている、あるいは、森林所有者等による独自の計画等に基づき管理経営されていることを確認する。
 - ③：当該木材が生産される森林について、希少な動植物がいる場合にはその保全を考慮した伐採作業等を行っていることを確認する。
 - ④：当該木材が生産される森林について、先住民族や地域住民からの苦情・要請等がある場合には、これを受け付け、誠実に対応していることを確認する。
 - ⑤：当該木材の伐採に従事する労働者に対して、安全衛生に関する教育を行い、適切な安全装備を着用させていることを確認する。
- (3) 各事業者は、直近の納入先に対して、上記（2）の確認が実施された木材であることを証明する書類（証明書）を交付し、それぞれの納入ごとに証明書の交付を繰り返すことにより証明を行う。
- (4) 型枠工事事業者は、コンクリート型枠合板を再使用する場合については、すでに使用されたものである旨を書面により証明しなければならない。
- (5) 各事業者は、当該木材についての入出荷の記録や証明書を含む関係書類を5年間保存しなければならない。

様式例1 (森林組合や輸入事業者等が作成する確認結果を記録する書面)

納入する木材に関し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の「持続可能性に配慮した木材の調達基準」の2の②～⑤について、同調達基準の別紙1に定める方法により確認を実施した結果は以下のとおりです。

確認方法	確認結果	根拠
<p>②当該木材が生産される森林について、森林経営計画等の認定を受けている、あるいは、森林所有者等による独自の計画等に基づき管理経営されていることを確認する。</p>	<p>【記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該木材の生産林は森林経営計画の対象林になっている。 	<p>【記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画書により確認
<p>③当該木材が生産される森林について、希少な動植物がいる場合にはその保全を考慮した伐採作業等を行っていることを確認する。</p>	<p>【記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該木材の生産林においては、希少な動植物の生息は把握されていない。 ・希少な猛禽類が営巣しているため、対策として・・・を行っている。 	<p>【記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政機関やNGO等が公表している希少動植物の生息情報や現地調査の結果により確認 ・希少動植物保全のための作業指示書・マニュアルにより確認 ・生産国の関係事業者への聞き取りにより確認
<p>④当該木材が生産される森林について、先住民族や地域住民からの苦情・要請等がある場合には、これを受け付け、誠実に対応していることを確認する。</p>	<p>【記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該木材の生産林について苦情等を訴えている地域住民等は把握されていない。 ・当該木材の生産林について地域住民から・・・という内容の要請があったので、これに対して・・・を行っている。 	<p>【記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該森林の所有者や自社の職員・作業員への聞き取りにより確認 ・生産国の関係事業者への聞き取りにより確認

<p>⑤当該木材の伐採に従事する労働者に対して、安全衛生に関する教育を行い、適切な安全装備を着用させていることを確認する。</p>	<p>【記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業員全員に対して安全衛生に関する研修を受講させている。 ・安全装備として、・・・を着用させている。 	<p>【記載例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修受講記録により確認 ・作業風景写真により確認 ・生産国の関係事業者からの書面回答により確認
---	---	---

※確認した文書の写しや聞き取り先から受けた説明の詳細な記録等を合わせて保管しておくこと。

年 月 日

確認実施者 _____

様式例3 (製材工場や木材販売事業者等が作成する証明書)
(①の証明と②～⑤の証明を合わせて行う場合)

番号
平成〇年〇月〇日

証明書

〇〇〇〇殿

事業者所在地：
事業者名：
代表者氏名：

下記の物件は、合法的に伐採された木材のみを原材料としていることを証明します。

【団体認定番号： 】

下記の物件は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が定める「持続可能性に配慮した木材の調達基準」の2の②～⑤について、同調達基準に定める方法に沿って確認を実施した木材のみを原料としていることを証明します。

- 1 樹種 ：
- 2 品目 (注ア) ：
- 3 数量 (注イ) ：

注ア：製材、合板、集成材等を記述して下さい。

注イ：商取引上の単位 (m³、本、kg、枚など) にて記述して下さい。

注ウ：合法性について別の文書で証明する場合は、第1段落を削除して下さい。

注エ：本様式による証明書の作成に替えて、既存の納品書等に上記の情報を追加記載することで証明書とすることも可能です。

1700×900



木青連の山

日本木材青壮年団体連合会

「林根転生」

～未来のための原点回帰～

平成28年9月吉日

平成28年度会長 越 井 潤

担当副会長 貴多野 秀史

60周年記念事業委員長 市之瀬 嘉樹

熊本地震に対しての日本木青連としての対応（案）

日本木材青壮年団体連合会
災害復興支援特別委員会

【趣旨】

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震における震災に対して木造住宅に対しての風評被害や、家屋を購入される方がより安心して住まえる家づくりの PR も木材を通じて「よりよい社会の建設」を謳う木青連としては不可欠である。

【現地における風評被害など】

・木造住宅に対しての不評被害なるものは意外に発生していない。理由として考えられるのは、神戸の震災時の火災や東北の放射能による木材への不信感がないことがあげられる。熊本県自体における林業が大きなウェイトを占めている部分もあると思われる。

現状で仮設住宅の建築は大雨の影響で、一部スケジュールの遅れは出ているものの順調。また住宅会社では熊本県内の大手含め受注は順調（住林に至っては例年の倍程度）であり、木造住宅への不信感は見られない様子。プレハブ系が営業現場レベルでの話は出ている可能性はあるが、統計レベルでの影響はまだない。

・亀山 東北地区長にも福島の状態を確認したが、現状でも福島県産材への放射能汚染を心配する被害は出ており、福島の大手製材メーカーも影響を気にして本社を（ペーパー上とはいえ）東京に移転させた例も報告されている。

【提案内容として】

木質系の販売店の提案としては下記の 4 パターンが挙げられます。

・地盤保障や保険などを含めた周知内容

⇒建築中の地震災害は通常の建築保険では免責となっている。建築の際のリスクの周知

・新築図面の耐震診断や既存建物の耐震診断の推奨・補助金

⇒既に各地方公共団体では、一部助成制度は存在、但し周知が不足している？

・木造構造材における引抜などの防止する金物の提案（新築、増築）

⇒木造、且つ 4 号特例の廃止はコスト面でも、実務的にも現実の建築では非現実的。補強金物を使うことで熊本地震で多く発生した引抜を防ぐ。但し、利用しても補償や保険の対象にはならない。

・壁倍率が取れるなどの面材商材の採用の強化（もしくは強制）

⇒比較的法規制の緩い増築箇所での倒壊も数多く報告されている。面材で強度が取れるなどの商材を中心に採用。

平成 28 年 7 月 5 日
福岡県木材青壮年連合会副会長
森本 吉則 (設計士)

熊本地震に見る木造軸組み住宅の今後について

今回の、熊本地震による木造住宅の被害を現地にて確認し感じたことを記します。

一般的には、新耐震基準以前の住宅には大きな被害が有り、えつり壁、土葺き瓦屋根の住宅に被害が多く見られたのは想定内だが、新耐震基準以降、普段我々が、これで OK と思い使用している構造金物を施工している住宅が倒壊していた事実で有る。今回の地震の特徴と言える、震度 6～7 の地震が連続して起こる事こそ、現状の建築基準法の想定範囲を超える事態となった。

その住宅の間取りや、壁バランス等も有ると思うが、筋交いが折れ、金物が引き抜けている様は背筋が凍る思いであった。ひどい所では、HD アンカーがちぎれている映像が報告されていた。(ネット上) 被災地では、軽量鉄骨ハウスメーカーの不倒神話がささやかれ、住宅展示場も軽量鉄骨系メーカーがにぎわっているようだ。このことについて、我々木材人は、どういふアプローチで木造住宅の普及促進 PR に繋げていくか、そしてより地震に強い住宅を設計していくかを考えねばならない。

元来日本は、木材の加工技術に長けている『木の文化』の国である。古来より、日本の住宅は木材で作られており、今後とも再生産可能な資源で有る木材をふんだんに使用した住宅づくりをして行くべきと考える。今後とも永続的に、木造住宅を普及させるために何をすべきか考えてみたい。今回の地震で、今後の木造住宅の設計・建築に際し、留意しなければならないポイントがいくつも見えてきた。

(新築住宅に関して)

※留意点 (私的意見)

今回の震災では、基本、新耐震以前の木造住宅の倒壊が目についたが、新耐震以降の木造住宅も多く被害を受けている。それを見るに、設計者の責任もさることながら、通常金物補強だけでは不十分では無いかと考える。(構造用金物も縦揺れには、ほぞ抜けなどで有効だが、今回のような激しい横揺れに何度も見舞われるケースでは不十分と思う) 出来る限り、耐震パネルや制振・免振材との併用設計が必要と考える。※今回の検証の中では、『危険敷地』と称される、地盤事倒壊した住宅は別物とする。(特に高低差のある敷地に多く見られた)

※法的改善

- 既存の壁量、耐力壁の配置バランス等の設計の見直し。簡易構造計算ソフトや、地震による構造躯体変形シュミレーション簡易ソフトの開発 (偏芯・剛芯等安価な物) 普及・促進・義務化等
- 構造用金物の固定方法の改善 (現状はビスを打ちすぎて木材が割れている)

- 壁量に関しては、木造3階建て住宅のように開口面積の制限を設ける。
平屋もしくは2階建てで開口部を広く取る際には、きちんとした開口部補強を行い
建築士による根拠のある書面の提出。(設計シート等)
- 耐震パネル施工の義務化(2×4でない限り構造用合板の使用は禁止。※防腐・防蟻に配慮)
備考:長期優良住宅を施工するのならば、通常の非パネル施工時と同等の筋交いを施工する事。
- 制振・免振金物を使用する。(工法が特殊であり、高価で一般工務店向きでは無いと考える。)
- 敷地事倒壊している住宅も多く見られた、現在任意となっている地盤補強等も、規制対象とし
補強の義務化、基準の厳格化が必要と考える。

※木材業会(日本木材青壮年団体連合会)に出来る事

木材を使った耐震パネル・制振パネルは日本木材青壮年団体連合会会員の中でも何社か作成されている。商品名は控えるが、木青会の災害復興委員会で国土交通省・林野庁に十分アピールできると考える。針葉樹合板による、耐震補強は日本の風土(高温多湿で雨が多い)には不向きであり、昨今言われている、高気密高断熱住宅になればなおさら避けた方が良くと考えるのが通常である。

今後、新築時には必ず、通常の筋交い+構造用パネルと併用で構造補強が必要となるだろう。各メーカーが開発している、制振補強金物や免振補強金物とは一線を画す、木材による構造パネルによる補強・集成材の門型フレームによる補強など、木材を前面に押し出したアピールが必要と言える。

木材を使用すると言う点で言えば、先ほども述べた、**■湿気・湿度の問題** **■腐朽菌に対する問題**
■シロアリに対する問題 **■住宅密集地による延焼の問題**などが上げられる。

どれも改善には費用と高い技術が必要となるが、木造住宅を普及させ、木材業界の需要拡大を考えるとこの手の問題を、製品単価・流通コスト・施工コストも安価で解決出来る製品の普及後望ましい。木材住宅がより地震に強く、強固であるために。一部の高級木材ハウスメーカーのみが使用できる建材ではなく、ローコストの木造住宅ビルダーでも使用できる耐震・制振・免振建材の開発、普及が何よりの急務と考える。

※リフォーム・耐震改修に関して

各県に試作として、『耐震改修助成制度』が存在する。基本的には、耐震診断士が家の診断=>耐震性能評価=>耐震計画+補強設計=>見積もり=>着工となる。各県により支給金額はバラバラだが、今一認知度に欠ける。改修方法は基礎補強・構造金物補強が中心だが、望めば免振・制振補強も可能である。補強方法は様々だが、世間に出回っている制振・免振に関する金物等は、元々製品の価格が高く対象者の負担が大きいと言える。各自治体が、使用製品や工法の指定はしにくいことは分かるが、補助を受ける側には選択種が広すぎ、尚且つ掛かる費用負担も想像しにくい。極力安価で、施工日数の掛からない工法で見積もり算定が安易な工法が望ましいと考える。

簡単な方法として言えるのが、耐力面材により壁面補強である。外壁を補強するには、足場工事・既存外壁の撤去など費用の拡大が避けられない。安価で、工事日数が掛からないのは、室内側の壁面をパ

ネル化する方法であろう。各メーカーとも、内壁補強の面材を商品化しており各種選択が可能となっている。

基本的には、非木質製品が多く見受けられる。我々木材人としては、そのまでも化粧面材として使用できる、木質系耐力パネルの開発は出来ないかと考える。今後 CLT 技術の普及などとも同調し、内装木質化+耐震補強が叶う製品の開発・取り組みが、木材業界に新たな需要を生む原動力になることを切に願う物である。

我が国に住まう限り、地震は避けて通れない問題である。木造住宅は、木材は地震に弱いと言う先入観を払しょくして行かなければならない。そのために、今後我々がどのように木材を PR していくのかを問われる機会となりうるだろう。

以上

賛助会員 入金状況一覧

区分	賛助会費	名前(担当者)	代表者名	会社名	入金	入金日
賛助会員	40000	松波 清人		株式会社マナックス	40000	7月22日
賛助会員	H27.28は木青連正会員	山口 和博				
賛助会員	40000	栗丸	代表取締役 角 博	九州木材工業株式会社	40000	7月29日
賛助会員	20000	加藤 慎一郎				
賛助会員	20000	井上 剛			20000	8月1日
賛助会員	40000	江口 達郎		江口木材株式会社	40000	7月15日
賛助会員	40000	上倉 一	代表取締役 田中 信行	さんもく工業株式会社	40000	8月15日
賛助会員	50000	當山 啓介	会長 井上 雅文	木材利用システム研究会	相殺	-
賛助会員	40000	押本 雅壽		丸宇住宅資材株式会社	40000	7月29日
賛助会員	20000	桑原 善吉		雛屋林材株式会社	20000	7月20日
賛助会員	40000	原 太一		株式会社地球丸		
賛助会員	20000	笠松 和秀		笠松林業株式会社	20000	7月20日
賛助会員	40000	日當 和孝		有限会社マルヒ製材	40000	7月15日
賛助会員	40000	栗林 一郎		株式会社相模原木材センター	40000	7月29日
賛助会員	20000	吉田 勝亮		株式会社吉田木材	20000	7月22日
賛助会員	20000	村本 喜義		株式会社ムラモト	20000	8月10日
賛助会員	80000	齊藤 治宣		株式会社内田洋行	80000	8月15日
賛助会員	40000	大黒 義之		オスモ&エーデル(株)	40000	7月29日
賛助会員	40000	竹川 民生		有限会社丸万フォレストース	40000	7月15日
賛助会員	40000	桃井 成人		東海木材問屋協議会		
賛助会員	40000	渋谷 隆		株式会社渋谷木材店	40000	7月25日

役職名：東北地区長

氏名：亀山武弘

項目	報告・連絡事項
平成28年7月9日(土)	東北地区協議会執行部会議(@仙台市 宮城十條林産会議室) 亀山、須田専務、峯岸東北大会実行委員長、筒井会団長、 庄子様(宮城県木材同友会OB) 議題:東北大会、東北地区協議会議決権、ワカラナイスクール、全国会長選出委員会設立 宮城県木材同友会及び東北地区の歴史、木工教室他 日本木青連報告事項(茶室コンペ、60周年他)
平成28年7月15日(金)	日本青年会議所木材部会との共催事業、国土交通省との情報交換会出席(@横浜)
平成28年7月16日(土)	日本木青連第3回常任理事会、理事会出席
平成28年7月23日(土)	第2回東北地区協議会(@青森) 勉強会:ワカラナイスクール(青森ヒバについて) 議題:ウッドトランスフォーム軽量化試作報告 東北地区大会について、東北からの全国会長選出選任の委員会設立について、 東北地区協議会過去資料破棄について、東北地区協議会議決権について LINE開設について他
平成28年8月6日(土)	日本木青連第3回臨時常任理事会 欠席
東北地区協議会 開催日	平成28年5月28日(@秋田)7月23日(@青森)9月10日(@いわき)11月5日(@仙台) 平成29年1月28日(@盛岡)3月18日(@山形)(新旧)
東北大会日程	平成28年11月5日(土)仙台市 11月4日前夜祭(参加希望者)(案内方法未定) 11月5日6:30~ゴルフ大会(仙台カントリーゴルフクラブ) 16:30~東北地区役員会 17:00~式典、18:00~19:30懇親会、20:00~21:00 2次会予定 役員会、式典会場は仙台国際ホテル エクスカージョン等の予定はありません。
	以上

報告事項

総務委員会 議案書

平成28年9月3日

協議	審議	報告
○		

担当副会長	専務	総務委員長
/	瓦野	朝間

委員会名	総務委員会
委員長名	朝間 健至
担当副会長名	瓦野 光貴（専務理事）

議案名	会員個人情報の取得ならびに公開に関する件
外部協力者協力の種類	
主旨	平成29年全面施行予定「改正個人情報保護法」により本会も個人情報取扱事業者として法の縛りを受ける事となる見込み。以降は個人の権利利益の保護に関し、従前以上に慎重な取り扱いが求められることになる。本会としては円滑な事業運営を図るために会員個人情報の把握は必須であることから、名簿（原簿）の作成に際し個人情報の取得項目は例年同等の範囲で行いたい。一方で、本会は会員紹介や会員交流、年度記録等の目的で会員情報を公開していたが、高まる個人情報保護意識、法改正による罰則の強化、漏えい事故時の被害低減等の理由により公開の是非や範囲、あり方等に関し会員の合意を図る必要があると思料。協議事案として稟申するものとして今理事会に上程する。
事業名称	
事業概要	<p>参加対象者：全現役会員</p> <p>【日本木青連（管轄：総務委員会）が現状管理している会員個人情報項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名・生年月日・所属地区と会団・日本木青連役職・会社名・会社役職 ・会社住所・電話番号・FAX番号・メールアドレス・携帯番号 等 <p>※上記項目は円滑な事業運営のため今後も基本情報として取得したい。 ※データ形式で年度毎に事務局にて保管しておく。</p> <p>■総会資料への名簿掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲載の是非 ・掲載範囲 <p>※現状は氏名・日本木青連役職・所属地区と会団・会社名・会社役職・会社住所・電話番号・FAX番号</p> <p>■会員内における公開（木青NET 会員ページ／会員検索システム 等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開の是非 ・公開範囲 <p>※現状は氏名・日本木青連役職・所属地区と会団・会社名・会社役職・会社住所・電話番号・FAX番号・メールアドレス・携帯番号・追加情報（任意）</p> <p>■対外的な公開（木青NET 一般ページ／役員紹介 等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開の是非 ・公開範囲 <p>※現状は常任理事と会団長理事の氏名・日本木青連役職・所属地区と会団・会社名・会社役職</p> <p>◎個人情報の保護と活用のバランスを図ることが重要 ◎公開は情報漏えい等の危険度が増すとともに会員の義務も発生することに注意 ◎事故が発生した時に被害を最小限に留める必要</p>
協議の要点	<p>①会員個人情報の取得項目に問題等ないか</p> <p>②総会冊子への掲載や会員内外への公開の是非、もしくはその範囲をどうするか</p> <p>③木青NETへ公開する際、任意による追記か、任意による削除のどちらが望ましいか</p>

協議事項

広報委員会 議案書

平成28年9月3日

協議	審議	報告
○	○	

担当副会長	専務	総務委員長
浅岡	瓦野	朝間

委員会名	広報委員会
委員長名	岩城努
担当副会長名	浅岡秀哉

議案名	頒布事業「2018年度版PRカレンダー企画」に関する件
外部協力者 協力の種類	サンメッセ株式会社(壁掛けカレンダー印刷会社)
主旨	「2018年度版PRカレンダー企画」 普段から誰も目にするカレンダーを通し、木材利用の良さ・必要性を訴えると同時に木青連活動の紹介を行い、知名度向上を目指す。さらにデザインを再考し、多くの会員に購入して頂くとともに広く利用して頂きやすいものとする。
事業名称	頒布事業「2018年度版PRカレンダー企画」
事業概要	「2018年度版PRカレンダー企画」 現在のPRカレンダーに関するアンケートを木青NET会員ページにて5月頃実施し、その結果をふまえてデザインを一新する。デザインの方向性としては、木材を取巻く環境や、木材がもつ魅力などを「人」、「もの」にスポットをあて写真で表現し、ひとつの「ストーリー」を通して、木材利用への理解を深めて頂けるようなものとする。 「木青連PRカレンダーに関するアンケート」5/16～6/4木青NET会員ページにて実施済み
協議の要点	・アンケート結果を踏まえた今後の方向性に関する事項 ・内容およびデザインに関する事項 ・2018年カレンダー撮影費に関する事項

協議(審議)事項

広報委員会 事業予算書

〔収入明細書〕

科 目	摘 要	金 額
PRカレンダー販売	13,500部 x @380(会員 50部以上)	¥ 5,130,000
PRカレンダー販売	500部 x @400(一般 50部以上)	¥ 200,000
合 計 (A)	—	¥ 5,330,000

〔支出明細書〕

科 目	摘 要 (支出先)	金 額
作成及び発送費・管理費	14,000部 x @303(税込)	¥ 4,242,000
2017年カレンダー予備費		¥ 50,000
2018年カレンダー製作費及び 2018年カレンダー撮影費	2018年度版カレンダー企画事業に伴うデザイン料及び 2018年度版カレンダー企画事業に伴う撮影諸費用	¥ 300,000
合 計 (B)	—	¥ 4,592,000

差額	A	—	B	=	¥ 738,000
----	---	---	---	---	-----------

協議（審議）事項



木を挽く

写真：三重県松阪市の製材所にて

平成28年

4

卯 月

【木を挽く】

木は一本一本に個性があります。

「どんな木目が出てくるか」、「どんな節が表れるか」

厳選して仕入れた原木と向き合い、その木を最大限に生かすために鋸をいれます。

まるで木と対話するかのように・

日	月	火	水	木	金	土
					1 先勝 建築吉日	2 友引
3 先負	4 仏滅 建築吉日	5 大安	6 赤口	7 仏滅	8 仏滅 建築吉日	9 大安
10 赤口	11 先勝	12 友引 建築吉日	13 先負	14 仏滅 建築吉日	15 大安	16 赤口 建築吉日
17 先勝	18 友引	19 先負 建築吉日	20 仏滅 建築吉日	21 大安	22 赤口	23 先勝
24 友引	25 先負	26 仏滅 建築吉日	27 大安	28 赤口 建築吉日	29 先勝 昭和の日	30 友引



このカレンダーは、環境に配慮した
植物油インキを使用しています。



カレンダーの印刷、製版、製本時に排出された二酸化炭素〇〇kgは環境省が認証した
全国の森づくり（〇〇県、〇〇県、〇〇県）の排出権（〇〇）でカーボンオフセットされ、
この取り組みを通じて、地球温暖化対策に貢献するとともに全国の森づくりを応援しています。

■カレンダー紙面構成

さまざまな営みの人物を交えた大きな写真で表現する。被写体となる人物は、できる限り 日本木青連会員もしくはその会員会社の関係者とする。写真の右下に撮影場所についての記述を入れるが、被写体となる方の氏名や事業所名については記載しない。



写真の中にテーマとなる言葉を配置する。

写真下部には、写真やテーマに興味を持った方向けに、木材利用におけるそのフェーズの解説文を100文字程度で記載。同時に、解説文を通して前後のテーマにつながりを持たせる。

平成28年
4月

【木を挽く】
木は一本一本に個性があります。「どんな木目が出てくるか」、「どんな節が表れるか」厳選して仕入れた黒木と向き合い、その木を最大限に生かすために磨かれています。まるで木と対話するかのよう...

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

六曜と建築吉日等を表示する。日にちの部分には、細く罫線を入れ見やすさと書込むことも想定したデザインとする。

現在のカレンダーと同様に植物油インキの使用とカーボンオフセットの取り組みを示す記述をする。

(有)岩城製材

三重県津市音良洲町2127-2
TEL.059-292-3114 FAX.059-292-2235

現在のカレンダーと同様に名入れスペースを設ける。

日本木青連株式会社 岩城製材
〒514-0001 三重県津市音良洲町2127-2
TEL.059-292-3114 FAX.059-292-2235 e-mail:info@iokasei.co.jp ホームページURL: https://iokasei.co.jp

日本木青連名称、所在等の記述をする。

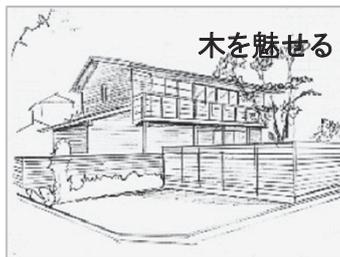
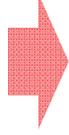
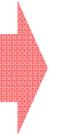
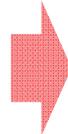
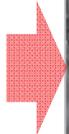
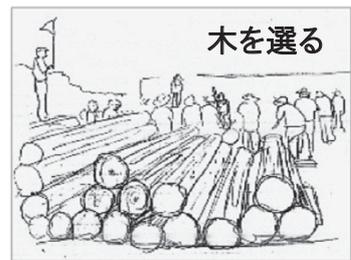
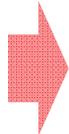
■一年を通した月ごとの構成と写真イメージ



表紙イメージ：
すべての月の写真を配置する



すべての月の写真を配置し、川上から川下への流れを一年を通じて感じてもらえる構成とする



木育事業の様子と
木工工作コンクール入選作品

木活コンクール受賞作品

木材活用委員会 議案書

平成28年9月3日

協議	審議	報告
○		

担当副会長	専務	総務委員長
浅岡	瓦野	朝間

委員会名	木材活用委員会
委員長名	三谷 州平
担当副会長名	浅岡 秀哉

議案名	第20回木材活用コンクール審査会 開催に関する件
外部協力者 (協力の種類)	木材活用コンクール審査員(コンクールの審査) 株式会社 内田洋行(審査会場の提供)
主旨	第20回木材活用コンクールの応募作品について予備審査ならびに最終審査を行う。審査会を開催し、審査委員会の委員によって「第20回木材活用コンクール」の募集要項による審査基準に基づいて審査を行い、優秀とされる作品を選び各賞の受賞作品を選定する。
事業名称	第20回木材活用コンクール審査会事業
事業概要	開催日時：(開始) H29年1月16日 (終了) H29年3月12日 開催場所：最終審査会会場:株式会社 内田洋行 【予備審査】 期間:平成29年1月26日～2月15日まで 場所:各審査委員の会社等 内容:全応募作品のPDFファイルを各審査員へ送付し、最終審査へ残される、作品の選考を行う。 【最終審査】 日時:平成29年3月12日(日)10:00～17:00(予定) 場所:株式会社 内田洋行 新川オフィス2F 内容:プロジェクターを使用した審査。各賞の選考を行う。 【審査委員会メンバー】 [審査委員長]深尾精一 [審査委員]有馬孝禮、加藤昌之、古久保英嗣、中川誠一、松井郁夫、藤田香織、宮澤俊輔(林野庁林政部 木材産業課長)、渋谷浩一(国土交通省住宅局 住宅生産課 木造住宅振興室長) 越井潤、浅岡秀哉、三谷州平 計12名
協議の要点	コンクールの厳正な審査を行うことで、木材活用コンクールのステイタスと信頼性向上を図るための重要な事業です。慎重審議よろしくお願ひします。

協議事項

木材活用委員会 事業予算書

〔収入明細書〕

科目	摘要	金額
事業費繰入金	審査会事業費	¥ 525,000
合計(A)	—	¥ 525,000

〔支出明細書〕

科目	摘要(支出先)	金額
審査会会場費	内田洋行 会場使用料	¥ 45,000
審査会資料作成費	予備審査、最終審査資料(100作品程度)	¥ 60,000
審査会費用	審査委員用(お弁当、飲料、お菓子)	¥ 20,000
審査員謝礼	審査委員長 審査員	¥ 400,000
合計(B)	—	¥ 525,000

差額	(A) — (B) =	¥ —
----	-------------	-----

協議事項

木材活用委員会 議案書

平成28年9月3日

協議	審議	報告
○	○	

担当副会長	専務	総務委員長
浅岡	瓦野	朝間

委員会名	木材活用委員会
委員長名	三谷 州平
担当副会長名	浅岡 秀哉

議案名	小原 二郎 先生を偲ぶ会 開催に関する件
外部協力者 協力の種類	日本木青連 H9年度(木材活用コンクール発足時)以降の歴代会長・担当副会長・ 木材活用委員長 及び 歴代審査委員 等
主旨	日本木青連 木材活用コンクール発足時から審査委員長や日本木青連顧問を歴任頂き ました 小原 二郎 先生(千葉大学名誉教授)が本年5月12日に安らかに永眠されました。 葬儀はご遺族の意思により家族葬にて執り行われたとのことです。 小原先生は上記コンクールの立ち上げや弊社と林野庁との関係強化にご尽力を頂いた 日本木青連の最大の功労者の一人であります。 そこで小原 二郎 先生とご縁がご縁のあった方にお集まりいただき、先生の思い出や エピソードを語りながら故人の足跡を振り返るべく、「偲ぶ会」を有志にて開催致したく 今理事会にて承認を求めます。
事業名称	小原 二郎 先生を偲ぶ会
事業概要	開催日時：(開始) H28年 10月 28日 (終了) H28年 10月 28日 開催場所：ホテルイースト21東京 3階「東陽の間」(東京都江東区東陽6-3-3) 参加対象者：日本木青連 H27・28年度常任理事(56名)、その他参加希望の理事等 日本木青連 H9年度(木材活用コンクール発足時)以降の歴代会長・ 歴代担当副会長・歴代木材活用委員長・歴代審査委員(39+15名) 協賛依頼対象団体：特になし 小原 二郎 先生を偲ぶ会 開催時間：18:00~20:00 尚 開催日を日本木青連「創立60周年記念事業発表会・大交流会」の前日とし、 重複する参加対象者の負担軽減と「創立60周年記念事業発表会・大交流会」への 更なる参加を促す。 また「偲ぶ会」実行委員長として、第38代会長 鈴木 龍一郎 氏に就いて頂き、 実働として浅岡副会長・木材活用委員会、実働補助として専務理事・総務委員会が 担当する。 開催内容は鈴木歴代会長との相談の上だが、和食buffet立食形式にて飲食・歓談 しながら故人のエピソードなどを語り頂く。献花は当然ながら、映像等は今後協議とする。 会場は円卓で60名まで可能。 案内送付は8月26日以降(事後)、締切は9月14日 ※別紙案内参照 参加費は¥13,000 宿泊に関しては60周年記念事業委員会の協力を頂き、ホテルイースト21東京(20室)と 他安価な宿で80室確保済。連泊の場合は60周年記念事業委員会と調整予定。
協議の要点	・主旨、概要及び開催内容の是非

協議(審議)事項



ホテルイースト21東京

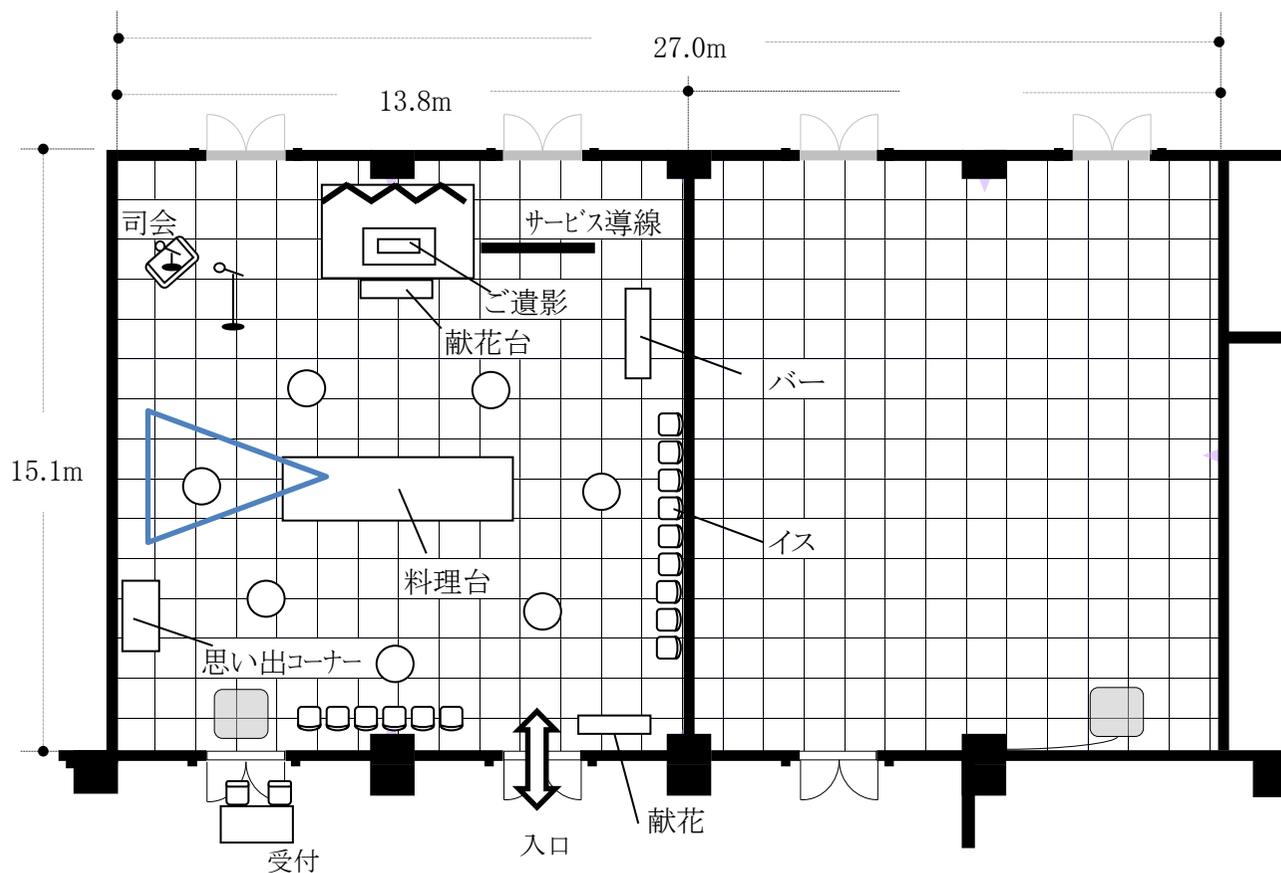
3階 大宴会場(東陽)
3rd Floor Plan: Banquet Room
(Toyo)

開催日	2016年10月28日(金曜日)
宴席名	小原二郎先生を偲ぶ会 御席
担当	田巻

東陽の間
Toyo

面積 410㎡(124坪)
floor space

天井の高さ 4.5m
ceiling height



小原二郎先生 偲ぶ会

年 度	9年度 (第43回)	10年度 (第44回)	11年度 (第45回)	12年度 (第46回)	13年度 (第47回)	14年度 (第48回)	15年度 (第49回)	16年度 (第50回)	17年度 (第51回)	18年度 (第52回)	19年度 (第53回)	
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	
会 長	鈴木龍一郎	榎戸正人	久保泰人	田中信行	齋藤 廣	吉田勝亮	影山秀樹	山田貴敏	日當和孝	角 博	日當和孝	
木 材 活 用 委 員 長	加藤昌之	江守淳一	松波清人	大須賀丈人	小野聖司	佐々木賢悦	堀 一彦	木脇章太郎	木脇章太郎	米地徳行	江口達郎	
担 当 副 会 長	宮島陽一	向河原義之	佐藤 保夫	吉川愛一郎	影山秀樹	加藤慎一郎	西下健治	長堂昌太郎	加藤弘一	島津浩之	吉田良弘	
審査委員長	千葉工業大学/ 日本インテリア学会会長	小原二郎										
審査委員	住木センター理事長	岡 勝男	岸純夫	岸純夫								
	千葉工業大学教授	東 孝光	?	黒川哲郎	黒川哲郎	黒川哲郎						
	木青連顧問	植村武	植村武	植村武	植村武	植村武	植村武	有馬考禮	有馬考禮	有馬考禮	有馬考禮	有馬考禮
	KDアトリエ代表	栗山正也	栗山正也									
	木構造振興	征矢 隆	征矢 隆									
	(株)加藤設計							加藤昌之	加藤昌之	加藤昌之	加藤昌之	加藤昌之
	松井建築設計								松井郁夫			松井郁夫
	首都大学										深尾精一	深尾精一
	駒沢大学教授 村口峯子デ ザイン事務所											
	日本インテリアプランナー協会顧問											
	東京大学准教授											
	林野庁林政部木材産業課長											
	国土交通省住宅局木造住宅 振興室長											
	木青連関係審査委員	鈴木龍一郎	榎戸正人	久保泰人	田中信行	齋藤 廣	吉田勝亮	影山秀樹	山田貴敏	日當和孝	角 博	日當和孝
加藤昌之		江守淳一	松波清人	大須賀丈人	小野聖司	佐々木賢悦	西下健治	木脇章太郎	木脇章太郎	米地徳行	江口達郎	
							堀 一彦					

小原二郎先生 偲ぶ会

パンフレット形式

年 度	20年度 (第54回)	21年度 (第55回)	22年度 (第56回)	23年度 (第57回)	24年度 (第58回)	25年度 (第59回)	26年度 (第60回)	27年度	28年度	
	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	
会 長	江守淳一	久我洋一	落合祐二	落合賢治	吉田良弘	木脇桂太郎	川西雅也	下荒隆晴	越井潤	
木 材 活 用 委 員 長	大貴隆司	木谷勝浩	松原輝和	坂本好孝	高瀬秀樹	下荒隆晴	氏平祥光	鈴木善一郎	三谷州平	
担 当 副 会 長	山口和博	安東真吾	中川雅文	江口達郎	山田和幸	越井潤	笹岡輝久	松崎輝利	浅岡秀哉	
審査委員長	千葉工業大学/ 日本インテリア学会会長	小原二郎	小原二郎 (急病により欠席)	深尾精一	深尾精一	深尾精一	深尾精一	深尾精一	深尾精一	
審査委員	住木センター理事長	岸純夫	岸純夫	岸純夫	岸純夫	岸純夫	岸純夫	岸純夫	岸純夫	古久保英嗣
	千葉工業大学教授	黒川哲郎	黒川哲郎	黒川哲郎	黒川哲郎	黒川哲郎				
	木青連顧問	有馬考禮	有馬考禮	有馬考禮	有馬考禮	有馬考禮	有馬考禮	有馬考禮	有馬考禮	有馬考禮
	KDアトリエ代表	栗山正也	栗山正也	栗山正也	栗山正也					
	木構造振興									
	(株)加藤設計	加藤昌之	加藤昌之	加藤昌之	加藤昌之	加藤昌之	加藤昌之	加藤昌之	加藤昌之	加藤昌之
	松井建築設計	松井郁夫	松井郁夫	松井郁夫	松井郁夫	松井郁夫	松井郁夫	松井郁夫	松井郁夫	松井郁夫
	首都大学	深尾精一	深尾精一							
	駒沢大学教授 村口峯子デ ザイン事務所	村口 峯子	村口 峯子	村口 峯子	村口 峯子	村口 峯子				
	日本インテリアプランナー協会顧問					中川誠一	中川誠一	中川誠一	中川誠一	中川誠一
	東京大学准教授						藤田香織	藤田香織	藤田香織	藤田香織
	林野庁林政部木材産業課長						飛山龍一	小島孝文	小島孝文	宮澤俊輔
	国土交通省住宅局木造住宅 振興室長						林田康孝	内田純夫	渋谷浩一	渋谷浩一
	木青連関係審査委員	日當和孝	久我洋一	落合祐二	落合賢治	吉田良弘	木脇桂太郎	川西雅也	下荒隆晴	越井潤
大貴隆司		木谷勝浩	松原輝和	坂本好孝	高瀬秀樹	下荒隆晴	氏平祥光	鈴木善一郎	三谷州平	
									浅岡秀哉	

平成28年8月吉日

日本木材青壮年団体連合会
平成27・28年度常任理事 各位

日本木青連 小原二郎先生を偲ぶ会
実行委員長(第38代会長) 鈴木 龍一郎
平成28年度会長 越井 潤
担当副会長 浅岡 秀哉
木材活用委員長 三谷 州平

日本木材青壮年団体連合会
「小原 二郎 先生 偲ぶ会」のご案内

謹啓 残暑の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

すでにご承知のことと存じますが、日本木青連 木材活用コンクール発足時から審査委員長や日本木青連顧問を歴任頂きました 小原 二郎 先生（千葉大学名誉教授）が本年5月12日に安らかに永眠されました。

葬儀はご遺族の意思により家族葬にて執り行われたとのことです。

そこで小原 二郎 先生とご縁のあった方にお集まりいただき、先生の思い出やエピソードを語りながら故人の足跡を振り返りたく、「偲ぶ会」を開催する運びとなりました。

ご多用中とは存じますが、ご出席下さいますようお願い申し上げます。
尚、当日は会費制とさせて頂いております。また平服でお気軽にご出席下さるよう重ねてお願い申し上げます。

敬白

記

■日 時：平成28年10月28日（金） 18：00～20：00

■場 所：ホテルイースト21東京 3階「東陽の間」東京都江東区東陽6-3-3
東京メトロ東西線「東陽町」駅徒歩7分（その他アクセスは別紙ご参照ください）

■会 費：13,000円

※準備の都合上、ご出席の方は9月16日（金）までに下記にて返信下さい。

■返信先：日本木青連事務局 小林 久美子（返信方法メールまたはFAX）
Mail: info@mokusei.net FAX：03-5620-4809

■お問い合わせ先：平成28年度担当副会長 浅岡 秀哉
Mail: hideya-asaoka@takaomokuzai.co.jp 携帯：090-3052-6099



FAX 用「小原 二郎 先生 偲ぶ会」出欠回答用紙

日本木青連事務局 宛 (FAX : 03-5620-4809)

10月28日(金) 小原 二郎 先生 偲ぶ会	ご出席	ご欠席
当日 宿泊	希望する	不 要
	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙 or 喫煙 ・10/28(金) 1泊2日 or ・10/28~30(金・土) 2泊3日 ・創立60周年記念事業発表会・大交流会 の登録時にホテルの依頼を (した・していない) 	
日本木青連 役職 (27 or 28 年度)		
会社名		
お名前 (フリガナ)	()	
Mail / 携帯電話	Mail :	携帯電話 :

※当案内は木材活用コンクール発足以降の歴代会長・歴代担当副会長・歴代木材活用委員長・歴代審査委員及び平成27・28年度の常任理事等に送付しております。ご了承下さい。

※宿泊に関しては、後日別途確認の連絡を致します。おそらく会場のホテルイースト21東京、若しくは近隣のビジネスホテルになります。(ホテルイースト21東京泊：金曜日15,000円/土曜日19,000円程度)

※翌日の10月29日は日本木青連 創立60周年記念事業発表会・大交流会が開催されます。併せてのご参加をお待ち申し上げます。

創立60周年記念事業発表会・大交流会について

■日 時：10月29日(土) 16:00～18:00 記念事業発表会
18:30～20:30 大交流会

■場 所：ホテルイースト21東京 1階ホールA

■登 録： 9月9日(金)締切

※平成28年度自会団の会団長へお申し込みください。



木育推進委員会 議案書

平成28年9月3日

協議	審議	報告
○	○	

担当副会長	専務	総務委員長
笹岡	瓦野	朝間

委員会名	木育推進委員会
委員長名	野崎 健太郎
担当副会長名	笹岡 輝久

議案名	第41回全国児童・生徒木工工作コンクール審査会 審査委員に関する件
外部協力者 協力の種類	全国木材組合連合会・全国造形教育連盟・文部科学省 農林水産省・林野庁・NHK・損保ジャパン日本興亜(株)・(株)ウッドワン
主旨	・平成29年2月26日に開催される第41回全国児童・生徒木工工作コンクール審査会の 審査委員(候補)を報告します。
事業名称	第41回全国児童・生徒木工工作コンクール審査会 審査員
事業概要	<p>【審査会 審査委員】</p> <p>審査委員長 全国造形教育連盟委員長 大野 正人様</p> <p>審査委員 林野庁・木材産業課・課長補佐 武藤 信之様</p> <p style="padding-left: 20px;">全日本中学校技術・家庭科研究会・事務局長 奥山 拓雄様</p> <p style="padding-left: 20px;">岡山県木材組合連合会 会長 田中 信行様</p> <p style="padding-left: 20px;">岡山県農林水産部林政課</p> <p style="padding-left: 20px;">日本放送協会(NHK)</p> <p style="padding-left: 20px;">損害保険ジャパン</p> <p style="padding-left: 20px;">ウッドワン 総務人事課法務広報課長 井深 正寿様</p> <p style="padding-left: 20px;">岡山木材青年会 顧問 川西 雅也様</p> <p style="padding-left: 20px;">日本木材青壮年団体連合会 会長 越井 潤</p> <p style="padding-left: 20px;">日本木材青壮年団体連合会 副会長 笹岡 輝久</p> <p style="padding-left: 20px;">日本木材青壮年団体連合会 木育推進委員長 野崎 健太郎</p> <p style="padding-left: 20px;">日本木材青壮年団体連合会 他 常任理事 数名</p> <p>第40回審査会は15名の審査委員(うち日本木青連常任理事 7名)</p>
協議の要点	

協議(審議)事項

木育推進委員会 議案書

平成28年9月3日

協議	審議	報告
○	○	

担当副会長	専務	総務委員長
笹岡	瓦野	朝間

委員会名	木育推進委員会
委員長名	野崎 健太郎
担当副会長名	笹岡 輝久

議案名	三育教本作成に関する件
外部協力者 協力の種類	三育会、友野印刷(デザイン・製作会社)
主旨	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の更なる木材需要拡大のため、異業種を巻き込んで推進しようとしているが、その手段として「茶室」が有効と考えている。 ・和菓子業界と茶道業界と共に日本文化を幼児に伝え将来の需要家になってもらうために「茶室」を利用する。 ・「茶室」の有効性と教育方法を記載して教育者や保護者に理解を促し、幼稚園や保育園に茶室を導入してもらうためのツールとして作成するものである。
事業名称	三育教本作成事業
事業概要	<p>開催日時：(開始) H28年4月1日 (終了) H29年3月31日</p> <p>本の骨子 : A4サイズ 20ページ程度 本の著作権 : 日本木材青壮年団体連合会 本の構成 : 別紙参照</p>
協議の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・外部協力者の可否 ・本の骨子 ・本の構成

協議(審議)事項

木育推進委員会 事業予算書

〔収入明細書〕		
科目	摘要	金額
委員会事業予算	一般会計事業費	¥ 100,000
合計 (A)	—	¥ 100,000
〔支出明細書〕		
科目	摘要 (支出先)	金額
予備費		¥ 100,000
合計 (B)	—	¥ 100,000
差額	(A) — (B) =	¥ —

<参考:林野庁助成事業>

〔収入明細書〕		
科目	摘要	金額
林野庁助成事業予算	三育教本製本費	¥ 2,000,000
合計 (A)	—	¥ 2,000,000
〔支出明細書〕		
科目	摘要 (支出先)	金額
原稿料	デザイン料、イラスト書き起こし、撮影等	¥ 770,000
印刷製本費	印刷代、製本代等	¥ 1,050,000
三育会 講師謝金	10,000円 × 6回	¥ 60,000
三育会 会場費	20,000円 × 6回	¥ 120,000
合計 (B)	—	¥ 2,000,000
差額	(A) — (B) =	¥ —

三育教本 構成（案）

1 ページ	表紙
2 ページ	<p>[上段] この本の作成目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本に書かれてあること（茶室での作法、教育方法）等 <p>[下段] この本を読んでできること（とりあえず文字で説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風邪をひきにくくなる、落ち着きがでるようになる、等
3 ページ	<p>[上段] 「三育」とは（三育の定義、作成側の思い）</p> <p>[下段] 目次</p>
4 ページ	<p>茶室の構成紹介（主に絵で紹介）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木で構成されている、お茶や茶菓子がある
5 ページ	<p>お茶を行うための準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服装（ex.白い靴下着用）、茶器、茶菓子、その他
6 ページ	<p>茶室の効果（グラフ等）</p>
7 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶を飲むと風邪を引きにくい（カテキン、サポニン成分） ・お茶を飲むと虫歯効果あり（カテキン成分） ・インフルエンザにかかりにくい（フィトンチット成分） ・落ち着きのある行動に（作法の実践、フィトンチット成分）
8 ページ	<p>お茶、茶器の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶：粉末状の抹茶、お湯、お茶のたて方・入れ方 ・茶器：最低限準備したいもの（茶碗、茶筌、茶杓、等）
9 ページ	<p>茶菓子の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薄茶には干菓子、砂糖菓子 ・その他の食べたいものでも OK
10 ページ	<p>点前手順紹介</p>
11 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・流派関係のない基本的、最低限のもの（茶碗のどこで飲むか、等）
12 ページ	<p>幼児が茶道に興味を持ってもらえるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶道着を着る（カッコいいと見られやすい、甚兵衛等でも OK） ・お茶菓子をキャラクターものにする ・お茶を実際に立てさせその音を聞かせる（大きいと楽しくなる） ・茶室に飾る花の当番を決めて茶室に行く楽しみを作る ・自分たちで折り紙で皿を作って茶菓子に乗せるのも OK ・その他
13 ページ	<p>茶室空間のその他利用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談する場所としての茶室を提案 ・先生同士が密談、子供の相談に乗ってあげる空間、等
14 ページ	<p>木育の意義（環境面）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間伐の必要性、CO2 ストック、等

15 ページ	作ってみよう！① = 木の楊枝 = <ul style="list-style-type: none"> ・どのような木を選ぶか（割り箸？ またはキットの紹介） ・削るのに必要な道具紹介（小刀、紙やすり、等） ・実際に作っている風景の写真
16 ページ	作ってみよう！② = 茶菓子 = （和菓子職人さんから監修いただく）
17 ページ	茶室事例集 <ul style="list-style-type: none"> ・実際に幼児が茶道をしているところ取材、写真撮影
18 ページ	茶室制作予算 <ul style="list-style-type: none"> ・おおまかな目安となる金額を提示 ・枠と御座だけ、という簡易的なものから始めても OK。
19 ページ	協力者、監修者、等の紹介
20 ページ	裏表紙

以上

異業種交流委員会 議案書

平成28年9月3日

協議	審議	報告
○	○	

担当副会長	専務	総務委員長
笹岡	瓦野	朝間

委員会名	異業種交流委員会
委員長名	中村 隆章
担当副会長名	笹岡 輝久

議案名	木の次世代茶室デザインコンペディションの実施に関する件
外部協力者 協力の種類	
主旨	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度スローガンに基づき異業種と協力し合い新しい文化の構築を目指します。 ・各業界団体に現状のさまざまな問題を抱え危惧する中、さらに未来に向けた活動をしなければ日本全体の人口減少に伴う建築需要は維持できないと考え、「教育」をテーマに教育機関と連携を図りながら「木育・食育・茶育」を実現するのは我々の目指すところと考えます。 ・お茶の文化は我が国が世界に誇れる文化の一つです。しかし今この日本文化を継承し日々の生活の基本にしている日本人はどのくらいいるのでしょうか？茶道の心は日本人気質を色濃く継承した伝統文化の一つであり、茶室における造作美を追求すると同時に、主人とお客様の一期一会の時間を演出するものであるならば、木に囲まれた空間もまた人と人をつなぐ要素として十分な役割を担えると考えます。全国の保育園幼稚園を対象に一園一室一校一室に「木の次世代茶室」の文化を創り、園児・児童がお茶の心を学ぶことにより我が国の文化を広く浸透させ継承になると考えます。国土の約70%が森林である日本で生活する私たちの木の文化とお茶の文化を融合させた「木の次世代茶室」を学生に対し公募し全国に普及を目指し需要創出の掘り起こしを図りたく上程します。
事業名称	木の次世代茶室デザインコンペディション～一園一室、一校一室木の次世代茶室プロジェクト～
事業概要	<p>開催日時：（開始） H28年 5月 1日 （終了） H29年 6月 17日</p> <p>開催場所：各学校</p> <p>参加対象者： 学生</p> <p>協賛依頼対象団体：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ参照。 ・学生によるコンペディションを行う。
協議の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・学生による木の次世代茶室デザインコンペの実施（公募資格等条件） ・コンペ開始応募期間。平成28年5月1日から平成28年10月31日まで ・応募方法について。 ・作品審査基準 ・外部協力者、協賛団体、審査委員会メンバー委員長、及び委員の可否 ・コンペ審査会の実施。平成28年11月19日 ・入選作品発表の実施。平成28年12月1日 ・表彰式の実施。平成29年1月15日 ・コンペに伴いホームページに専用サイトを設けPR、公募、結果発表等を行う。 ・コンペに伴うPRチラシの製作。 ・入賞作品の褒章金＝記念品贈呈の設定。 ・入賞作品の上位1、2点を実際に建築（改築）するにあたっての協力。 ・茶室建築（改築）にあたっての検証委員会の実施とそれに伴う有識者の招集。

協議（審議）事項

異業種交流委員会 事業予算書

〔収入明細書〕

科目	摘要	金額
委員会事業予算	木の茶室コンペ事業	¥ 400,000
	茶の湯研修会に予算移行	¥ -100,000
合計(A)	—	¥ 300,000
〔支出明細書〕		
科目	摘要(支出先)	金額
木の茶室コンペ実施費	広報用PRチラシ、ポスター等、作成費、印刷費、 発送費	¥ 80,000
(委員会事業予算)	審査委員会依頼費(謝礼、交通費含む)	¥ 160,000
	審査会場費	¥ 20,000
	入賞作品記念品	¥ 70,000
	表彰式実施費、賞状等	¥ 20,000
	検証委員会費(依頼、会場費込)	¥ 50,000
	↓変更	
木の茶室コンペ実施費	広報用PRチラシ、ポスター等、作成費、印刷費、 発送費	¥ 60,000
(委員会事業予算)	入賞作品記念品、及び発送費	¥ 100,000
	表彰式会場費、賞状等	¥ 50,000
	検証委員会費(依頼費、会場費)	¥ 70,000
	全国大会作品パネル・写真パネル制作費	¥ 20,000
合計(B)	—	¥ 300,000
差額	(A) — (B) =	¥ -

<参考：林野庁助成事業>

〔収入明細書〕		
科目	摘要	金額
林野庁助成事業予算	木の次世代茶室コンペ入賞作品のモデル設置	¥ 3,700,000
合計(A)	—	¥ 3,700,000
〔支出明細書〕		
科目	摘要(支出先)	金額
木の茶室コンペ実施費	茶室モデル設置需用費(材料費)2物件	¥ 3,360,000
(林野庁助成事業予算)	審査委員会依頼費(謝金、交通費含む)8人分	¥ 240,000
	審査会場費	¥ 10,000
合計(B)	—	¥ 3,610,000
差額	(A) — (B) =	¥ 90,000

協議(審議)事項

異業種交流委員会 議案書

平成28年9月3日

協議	審議	報告
○	○	

担当副会長	専務	総務委員会
笹岡	瓦野	朝間

委員会名	異業種交流委員会
委員長名	中村 隆章
担当副会長名	笹岡 輝久

議案名	茶の湯研修会の実施に関する件
外部協力者 協力の種類	茶人、梅原宗直氏 別紙添付プロフィール参照
主旨	<p>「新しい木の文化」を創り出す取り組みとして「一園一室、一校一室木の次世代茶室プロジェクトを進める中、教育をテーマに「木育」「食育」「茶育」を「三育」と称し、それぞれの関連諸団体との交流を進めています。一見共通項が見えないかも知れない「三育」ですが、肉体（フィジカル）よりも精神（メンタル）を育むという特性において強い共通項があると感じています。「茶育」は茶道教育のメンタル面を指し、お茶席を通じて相手をもてなす精神の極みを学び、礼儀や作法を大切にすることが育まれます。茶室の造りや、お茶席での作法、それぞれ全てに意味があります。そしてこの根底には「おもてなし」の精神や、精神的落ち着きの「平常心」があり、これらは国や地域を越えて世界中から注目されている日本古来の文化です。</p> <p>茶の湯研修会を通じて「おもてなし」の精神を学び体験し、茶育を含む三育の理解を深めて頂くと共に、取引先や顧客との接客等にも活かせる研修会として開催致したく上程します。また、茶の湯体験を通じての心の研修を受けていただき、活動の集大成を平成29年6月の全国大会に全国の会員に対して総出にて「おもてなし」の心で歓迎の意を表したく考えます。</p>
事業名称	茶の湯研修会
事業概要	<p>開催日時：（開始） H29年 3月 25日 （終了） H29年 3月 25日 開催場所：京都市内 参加対象者：会員各位 協賛依頼対象団体：なし</p> <p>①茶道、梅原宗直氏の講義 約60分 講義内容：文化、茶道の心、幼児教育について ②茶の湯体験 約60分 日本木青連会員に対して全員に生菓子・お茶を体験頂く ③茶懐石懇親会 約120分 近畿地区協議会第7回理事会、平成29年度第1回理事会（新旧合同）の懇親会と合同 常任理事・理事・会員100人程度想定</p>
協議の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・日程 平成29年3月25日 ・開催場所 京都市内 ・事業概要の構成 ・常任理事及び近畿地区協議会との協力事業 ・外部協力者、協賛団体の可否

協議（審議）事項



■プロフィール

茶人 梅原宗直 (うめはら そうちよく)

幼少の頃から音楽と柔道に力を注ぎ、その後、レゲエ歌手として活動を開始。

18歳の頃、日本人として「動と静」を身に付ける為、和歌山県茶道石州会(清水派)の会長である、仁木宗定師範の社中となる。

奈良県大和郡山市にある石州流家元「慈光院」との繋がりも経て、27歳の時に石州流茶道師範一級(皆伝)を取得。

現在は、「茶人 梅原宗直」として日々様々な場所で活動を行い、茶における歴史文化・作法・点前等を取り入れながら、「誰もが気軽に楽しめるお茶」・「他・異業種とのコラボレーション・交流」等を行い、「日本の茶文化」をさらに幅広く世の中へと発信していく活動を行っています。

実績として某有名飲料メーカーの企画協力や、「nana's green tea」での店舗周年祭及び「ららぽーと EXPOCITY」でのブレ・グラントオープン企画開催、世界遺産 高野山開創1200年祭にて「金剛峰寺」との連携による茶会の開催、高野山内「準別格本山 恵光院」での定期茶会を開催、「和歌山城」内にて抹茶体験の定期開催等を行う等。

■略歴

- 1981年 和歌山県和歌山市生まれ (34歳 男性)
- 2000年 和歌山県立和歌山西高等学校 卒業
- 2001年 石州流清水派師範 仁木宗定の社中となる
- 2004年 阪南大学経済学部経済学科 卒業
- 2006年 広島県 厳島神社にて石州流十六代家元主催の茶会に参加
- 2009年 奈良県慈光院開山玉舟和尚並び片桐石州毎歳忌法要にて薄茶点前担当
- 2010年 奈良県 慈光院二畳台目茶室(重要文化財)にて薄茶点前担当
- 2011年 和歌山県岩出市にて「和真庵 茶道教室」設立
- 2013年 京都府宇治市和束町にて開催の「茶源郷まつり」抹茶体験ブース担当
- 2014年 全国・海外展開の和カフェ「nana's green tea」での企画イベント開催
- 2015年 高野山開創1200年祭にて総本山 金剛峰寺との連携により「高野山茶会」を主催
- 2016年 拠点を高野山内に移動すべく総本山 金剛峰寺、関係各所と計画中

■連携・関連企業

高野山 金剛峰寺・準別格本山 恵光院・nana's green tea・山政小山園・今西製茶・和菓子司いづみや etc

政策提言委員会 議案書

平成28年9月3日

協議	審議	報告
○	○	

担当副会長	専務理事	総務委員長
丸	瓦野	朝間

委員会名	政策提言委員会
委員長名	田野 巧一郎
担当副会長名	丸 敏幸

議案名	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会への提言に関する件
外部協力者 協力の種類	公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、その他
主旨	<p>東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会による木材の調達基準の説明会に参加させていただいた時の説明では、現在の合法木材に加えて、希少生物や先住民への配慮、労働安全が守られているかを証明する事が必須になりました。全てにおいて持続可能性が判断の基準になっていますが、問題は価格について何も触れていないことです。</p> <p>日本の森林の現状は、植林から伐採までの長期にわたる投資に見合った収入を得ることが難しく、数本残して植林をせずに放置するので禿山が増え、植林しても十分な手入れがなされず荒廃が進み国土保全など森林の多面的機能が低下しています。そうすると山が疲弊し、理念として掲げている持続可能性が実現できません。そこで発注者のゼネコンに山を見てもらい、伐採、製材、市場を見学してもらうことで適正な価格を理解してもらうような規定を調達基準に盛り込んでもらうことを要望することで、全国の産地から幅広く材を供給でき、中小企業に商売が繋がることが期待できます。</p> <p>上記に基づき、事後ではありますが別紙「持続可能性に配慮した木材の調達基準に対する材供給価格に関する要望書」を東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に提言することの承認を頂きたく、今理事会に上程致します。</p> <p>また先般8月6日の第2回臨時常任理事会にて、この案件は承認頂いたことも併せて報告致します。</p>
事業名称	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会への持続可能性に関する要望書提出
事業概要	<p>開催日時：8月25日 開催場所：公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 事務局 参加対象者：日本木青連 政策提言委員会、政策提言部会 等 協賛依頼対象団体：特になし</p> <p>●『持続可能性に配慮した木材の調達基準』に対する材供給価格に関する要望</p>
協議の要点	<ul style="list-style-type: none"> ・要望活動の有無 ・要望内容について

協議（審議）事項

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 殿

『持続可能性に配慮した木材の調達基準』
に対する材供給価格に関する要望書

平成 28 年 8 月 25 日



日本木材青壮年団体連合会

『持続可能性に配慮した木材の調達基準』

に対する材供給価格に関する要望

先日行われた東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会による『「持続可能性に配慮した調達基準」に関する説明会』において、木材の調達基準は現在の合法木材の証明に加え、生態系の保全、先住民族や地域住民の権利に配慮されていること、従事する労働者の安全対策が適切に取られていることなどを証明する事が必須となりました。全てにおいて持続可能性が判断の基準になっていますが、問題は供給木材の価格について何も触れていないことです。日本の森林の現状は、植林から伐採までの長期にわたる投資に見合った収入を得ることが難しく、数本残して植林をせずに放置するので禿山が増え、植林しても十分な手入れがなされず荒廃が進み国土保全など森林の多面的機能が低下しています。さらに、近年木材自給率50%以上を目標とした活用の為に多様化した木材利用促進の影響により木材需要バランスが崩れ、さらなる荒廃や価格低下が進んでいます。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連予算が増大している状況下で、木材利用が促進されても発注者のゼネコンによる価格叩きは容易に想定でき、より森林の荒廃や価格低下を助長します。これでは東京オリンピック・パラリンピック競技大会で理念として掲げている『持続可能性』は実現不可能と思われる。

上記の事より以下を望みます。

持続可能性を配慮した木材の適正価格の基準構築

それによる山への循環システムを立て直し、持続可能性社会の実現

また以下を促します。

設計/施工/発注に携わる方々への現場体験視察

設計/施工/発注に携わる方々に山からの伐採、植林、出材、土場での丸太競り、製材、市場での製品競り、工場での加工、現場への納材までの一貫の流れを見学 又は体験することで、木材が消費者へ辿り着くまでの労力と木材の適正価格を理解して頂きたく存じます。

2016年8月25日

日本木材青壮年団体連合会 平成28年度 会長 越井 潤

〒135-0041 東京都江東区冬木6-14 飯沼ビル

TEL:03-5620-4806 FAX:03-5620-4809

Email: info@mokusei.net HP: http://mokusei.net

木青連の山管理運営委員会 議案書

平成28年9月3日

協議	審議	報告
○	○	

担当副会長	専務	総務委員長
	瓦野	朝間

委員会名	木青連の山管理運営委員会
委員長名	越井 潤
担当副会長名	

議案名	創立60周年記念グッズ作成に関する件
外部協力者 協力の種類	ヤクモ家具製作所 株式会社
主旨	平成28年10月13日に創立60周年を迎えるに当たり、記念事業として行った「木青連の山の間伐整備」時に調達した伐採材(ヒノキ)を素材として、創立60周年記念グッズとしてオリジナル「名刺入れ」を作成する。
事業名称	創立60周年記念グッズ「オリジナル名刺入れ」の作成
事業概要	開催日時：(開始) H28年9月1日 (終了) H28年6月17日 開催場所： 参加対象者：60周年記念事業委員 協賛依頼対象団体： 9月上旬 グッズ作成に関する協議・審議 9月中旬 見本品の作成依頼・発注 10月29日 60周年記念事業発表会 & 交流会にて披露
協議の要点	①27年度において承認いただいた「記念グッズ作成」事業の確認 ②見積金額について ③5632円(間伐事業残)と12600円(看板工事予備費=残予定)の繰入について ④数量限定による販売方法等について

協議(審議)事項

木青連の山管理運営委員会 事業予算書

〔収入明細書〕

科 目	摘 要	金 額
委員会事業予算	記念グッズ作成	¥ 700,000
〃	間伐整備 残金	¥ 5,632
〃	看板設置 残金予定	¥ 12,600
年間事業雑費		¥ 15,632
合 計 (A)	—	¥ 733,864

〔支出明細書〕

科 目	摘 要 (支出先)	金 額
名刺作製費	ヤクモ家具製作所(別紙見積書参照)	¥ 493,560
製材・乾燥・配送	影山木材・運送業者等	¥ 150,000
予備費		¥ 90,304
	製材・乾燥・配送については適宜、費用を抑え、 少しでも製作数量を増やせるように調整いたします	
合 計 (B)	—	¥ 733,864

差額	(A) — (B) =	¥ —
----	-------------	-----

協議 (審議) 事項

御 見 積 書

日本木材青壮年団体連合会 御中

ご担当者 様

下記の通りお見積致しましたので、何卒ご用命の程宜しく申し上げます。

受渡場所 貴社指定（日本国内離島除く）

納入期日 注文日より 4 5 日程度

有効期間 発効日より 1 ヶ月

支払方法 別途協議による

配送方法 宅急便（軒先渡し）

ヤクモ家具製作所 株式会社

〒699-0555 島根県出雲市斐川町坂田 605

TEL : 0853-27-9895 FAX : 0853-27-9892

<http://yakumo.jp/> support@yakumo.jp

取引銀行 山陰合同銀行 荘原支店

普通 No. 3 6 3 4 2 9 8

担 当 : 寺 本 大 友 印

品名	素材	寸法	LOT	単価	金額
木製名刺入れ（オリジナル品）	ヒノキ（支給）	縦 10.6×横 6.8×厚み 1.1cm 程度	100	3,700	370,000 円
パッケージ制作費（初期費用含む）			1	37,000	37,000 円
デザイン開発費				50,000	50,000 円
					合計 457,000 円

【注意事項】

お見積金額は税別となります。

お見積金額は概算となります。形状、仕様が大きく変わる場合は別途お見積とさせていただきます。

材料支給品については、材料特性上の不具合（反り・割れ・スキマ等）は弊社品質保証の適用外となります。

ちょっとだけ、名刺交換が楽しくなりました



滑らかな面取り加工で握りやすい

主に手に触れる箇所、縦方向2箇所丸面加工を施し、握りやすい曲面を作りました。(Rタイプ) 自然素材の風合いを活かしたオイル仕上げと緩やかな曲面が、より暖かく優しい感触を作ります。ポケットから出し入れする際の「引っ掛かり感」もありません。



押し出さないデザインで
コンパクトな見た目

両サイドのエッジを丸くする事で、一回りコンパクト外観を実現しました。上面・底面はあえてフラットなデザインとする事で、天然木を用いながら、工芸品とは一線を隔したスタイリッシュな大人のアイテムを目指しました。

ALL天然木

開閉部分も**全て天然木**で作りました。
ヒンジなどの**金具は竹**で代用。



平成27年度全国大会実行委員会 事業報告書

平成28年9月3日

協議	審議	報告	担当副会長	専務	総務委員長
○	○			瓦野	朝間

委員会名	平成27年度全国大会実行委員会
委員長名	石川 敏英
担当副会長名	松崎 輝利 / 小林 稔政 ※平成27年度時

議案名	第61回全国会員福井大会 事業報告 及び 収支決算書の件																					
外部協力者 協力の種類	(株)福井新聞PRセンター:大会企画・運営等 (株)相互トラベル:大会登録受付業務、エクスカーション等																					
主旨	第61回全国会員福井大会へ多数のご来賓、全国各地区からの会員の皆様、OB・先輩の皆様のご参加のもと開催することができ、誠にありがとうございました。																					
事業名称	日本木材青壮年団体連合会 第61回全国会員福井大会																					
活動報告	<p>開催日時：(開始) 平成28年6月10(金) (終了) H28年6月12日(日)</p> <p>●平成28年6月10(金)</p> <p>【H27年第8回常任理事会・理事会／H28年第2回常任理事会・理事会、第120回通常総会 全国会団長会議、委員会などの各種会議】</p> <p>会場：ホテルフジタ福井 3階 ザ・グランユアーズフクイ</p> <p>【前夜祭】</p> <p>会場：ホテルフジタ福井 3階 ザ・グランユアーズフクイ</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>登録数</td><td>252 名</td></tr> <tr><td>ご来賓</td><td>3 名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>255 名</td></tr> </table> <p>●平成28年6月11日(土)</p> <p>【大会式典】</p> <p>会場：AOSSA 8階 福井県県民ホール</p> <p>【記念講演会】</p> <p>会場：AOSSA 8階 福井県県民ホール</p> <p>講師：花田景子氏</p> <p>演題：笑顔に支えられる人生</p> <p>【大懇親会】</p> <p>会場：ホテルフジタ福井 3階 ザ・グランユアーズフクイ</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>登録数</td><td>538 名</td></tr> <tr><td>ご来賓</td><td>27 名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>565 名</td></tr> </table> <p>●平成28年6月12日(日)</p> <p>【エクスカーション】</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>①福井歴史ロマンの旅</td><td>参加者数</td><td>39 名</td></tr> <tr><td>②日本木青連ゴルフコンペ</td><td>参加者数</td><td>43 名</td></tr> <tr><td></td><td>合計</td><td>82 名</td></tr> </table>	登録数	252 名	ご来賓	3 名	合計	255 名	登録数	538 名	ご来賓	27 名	合計	565 名	①福井歴史ロマンの旅	参加者数	39 名	②日本木青連ゴルフコンペ	参加者数	43 名		合計	82 名
登録数	252 名																					
ご来賓	3 名																					
合計	255 名																					
登録数	538 名																					
ご来賓	27 名																					
合計	565 名																					
①福井歴史ロマンの旅	参加者数	39 名																				
②日本木青連ゴルフコンペ	参加者数	43 名																				
	合計	82 名																				
備考	事業報告及び収支決算につきまして、ご報告いたします。 余剰金の処理につきましてご意見をいただき、協議及び審議をお願い致します。																					

協議（審議）事項

事業決算書(案)

委員会名 全国大会実行委員会

議案名 第61回全国会員福井大会 事業収支決算報告(案)

(収入明細)

科目	予算額	決算額	差引	概要
前夜祭登録料	¥2,000,000	¥2,520,000	¥520,000	252名×¥10,000
大会登録料	¥9,000,000	¥8,070,000	¥-930,000	538名×¥15,000
エクスカージョン登録料	¥0	¥1,471,000	¥1,471,000	観光39名×10,000 ゴルフ47名×23,000
委員会事業費	¥1,000,000	¥1,000,000	¥0	日本木材青壮年団体連合会より繰入
協賛金	¥3,700,000	¥5,170,000	¥1,470,000	広告協賛金
補助金収入	¥800,000	¥850,000	¥50,000	福井県コンベンションビューロより
雑収入	¥100,000	¥10,064	¥-89,936	お祝金¥10,000 利息¥64
収入計	¥16,600,000	¥19,091,064	¥2,491,064	

(支出明細)

科目	予算額	決算額	差引	概要
会場設営費	¥3,500,000	¥3,002,976	¥-497,024	会場使用料、音響・映像機材費等
総務費	¥3,800,000	¥4,317,787	¥517,787	大会記念誌作成費、企画管理費等
前夜祭	¥2,300,000	¥3,028,950	¥728,950	飲食費、アトラクション費等
式典・大懇親会費	¥5,500,000	¥5,668,384	¥168,384	飲食費、アトラクション費等
PR費	¥1,000,000	¥1,042,412	¥42,412	大会案内リーフレット費、PR活動費等
エクスカージョン費	¥0	¥1,641,204	¥1,641,204	観光¥402,420 ゴルフ¥1,238,784
予備費	¥500,000		¥-500,000	
余剰金		¥389,351	¥389,351	
支出計	¥16,600,000	¥19,091,064	¥2,491,064	

2016年 8 月22日

監査の結果、適正であると認めます

監事 鈴木徹 

監事 小玉一博 